

2015（平成27）年度

七飯町海外交流研修報告書

アメリカマサチューセッツ州コンコード町 姉妹都市交流事業



七 飯 町

目 次

- 発行にあたって 七飯町長 中 宮 安 一 1
- 海外交流研修参加者 2
- 地 図 3
- 旅 程 4
- ホストファミリー 5
- 事前事後研修日程 6
- 写真で見る交流研修 7～17
- 中高校生レポート 浅 井 咲 蘭 (七飯中学校) 18～21
根 岸 遥 香 (七飯中学校) 22～24
片 渕 天 嶺 (大中山中学校) 25～28
西上床 春 加 (大中山中学校) 29～31
福 川 冬 真 (大沼中学校) 32～37
松 永 菜 々 子 (七飯高等学校) 38～41
高 田 真 由 (七飯高等学校) 42～44
見 延 憧 子 (七飯高等学校) 45～49
- 引率教員レポート 鈴 木 将 之 (七飯中学校) 50～54
- 町民代表レポート 成 田 拓 郎 (農業後継者) 55～57
松 本 健 吾 (農業後継者) 58～61
澤 田 良 太 (農業後継者) 62～64
- 随員職員レポート 杉 原 太 (政策推進課長) 65～70
クリス・ハウエル (国際交流員) 71～74
- 七飯町中高校生海外交流研修要綱 75～76
- 七飯町民海外交流研修派遣事業要綱 77
- 新聞掲載状況 78～79

2015(平成27)年度 七飯町海外交流研修報告書

アメリカマサチューセッツ州コンコード町姉妹都市交流事業

平成28年3月発行

編集・発行 七飯町総務部政策推進課交流推進係

〒041-1192 北海道亀田郡七飯町本町6丁目1-1

TEL 0138-65-5792

七飯町海外交流研修報告書発行にあたって

七飯町とコンコード町は、1997年11月に姉妹都市提携の調印を交わしてから今年で18年を迎えました。

そして、この海外交流研修は今年度で21回目を迎え、10月28日から11月7日までの11日間、コンコード町に、総勢14名（中学生5名、高校生3名、引率教員1名、一般町民3名、役場職員2名）で訪問してきました。

現地では、全員がホームステイ体験をさせていただき、米国の文化や習慣を学びながら七飯町の魅力を紹介するなど、姉妹都市交流の目的を十二分に達成してきました。

生徒たちは七飯高校の姉妹校であるコンコードカーライル高校において、一緒に授業に参加し、また、ラジオ局での生出演、「若草物語」の舞台となったオーチャードハウスや、アメリカ独立戦争勃発の地であるオールドノースブリッジ、そして、今年度はアメリカの一大イベントのひとつであるハロウィンの時期であったことから、中高生においては仮装してパーティーに参加、さらには、魔女の街として有名なセーラム市を案内していただくなど普通の観光ではできない貴重な体験をしてきました。

将来を担う若者たちが自分の目や耳で直接体験することは計り知れない良い経験であり、生涯において大変貴重な財産になったことと思います。

一般町民代表の参加につきましては、国際交流事業を七飯町の農業振興に役立てたいという思いから、本年度は農業の後継者を対象に参加を募り、若手後継者の育成を図るため米国の農業事情や日本との類似点、違いなど直接、現地の農業者と意見交換をし、学んでもらうことを主眼に実施しました。

引率教員におかれましても、現地の高校にて、日本の学校紹介や生徒同士のカード交換などをして積極的に交流してきました。

また、第10代目国際交流員のクリス・ハウエルさんが、現地にて訪問団とともに随行し中高生のサポートをしていただくなど重要な役割を果たしていただき心より感謝申し上げます。現在は英会話講座の講師や七飯高校英語部での活動や両町の交流の架け橋となり積極的に仕事をしております。

最後になりますが、本事業の実施にあたりまして、様々な形でご協力くださいました各中学校並びに七飯高校、地域、家庭の皆様、そして、心温まる受入をしてくださったコンコード町の皆様方に改めて厚くお礼申し上げます。



平成27年度

七飯町海外交流研修参加者



【アメリカ合衆国】



【マサチューセッツ州拡大】



平成27年度 七飯町海外交流研修旅程

	月 日	地 名	時刻	交通機関	行 程	食 事
1	10月28日 (水)	函館空港 函館空港発 羽田空港着 羽田→成田 成田市空港着 成田空港発	8:45 9:55 11:25 13:20 18:30	各自 リムジンバス 空港内で昼食 JAL-008【ボストン直行便】	函館空港出発ロビー集合 国内線にて羽田へ 【日付変更線通過】 着後コンコードへ [コンコード泊]	昼：各自 夕：機内食 朝：機内食 昼：機内食
2	10月29日 (木)	コンコード滞在			コンコード町内において通学・交流 [ホームステイ] [コンコード泊]	朝：家庭 昼：学校 夕：家庭
3	10月30日 (金)	コンコード滞在			コンコード町内において通学・交流 [ホームステイ] [コンコード泊]	朝：家庭 昼：学校 夕：家庭
4	10月31日 (土)	コンコード滞在			コンコード町内において通学・交流 [ホームステイ] [コンコード泊]	朝：家庭 昼：学校 夕：家庭
5	11月1日 (日)	コンコード滞在			コンコード町内において交流 [ホームステイ] [コンコード泊]	朝：家庭 昼：家庭 夕：家庭
6	11月2日 (月)	コンコード滞在			コンコード町内において交流 [ホームステイ] [コンコード泊]	朝：家庭 昼：家庭 夕：家庭
7	11月3日 (火)	コンコード滞在			コンコード町内において通学・交流 [ホームステイ] [コンコード泊]	朝：家庭 昼：学校 夕：家庭
8	11月4日 (水)	CCHS集合 コンコード発 ニューヨーク着 ホテル着	6:30 7:15 12:00	貸切バス 自由の女神等見学	CCHS集合 コンコード出発 ニューヨーク市内視察 [ニューヨーク泊]	朝：家庭 昼：レストラン等 夕：ホテル等
9	11月5日 (木)	ホテル発 ニューヨーク滞在 ホテル着	9:00	貸切バス ニューヨーク市内視察	空港へ [ニューヨーク泊]	朝：ホテル等 昼：レストラン等 夕：ホテル等
10	11月6日 (金)	ホテル発 ニューヨーク発	6:00 9:15	成田空港へ		朝：ホテル 昼：機内食 夕：機内食
11	11月7日 (土)	成田着 成田→羽田 羽田空港発 函館空港着	13:35 17:30 18:50	リムジンバス JAL-589 現地解散		朝：機内食 昼：各自

～ホームステイ先一覧～

派遣者名	ホストファミリー	住所
浅井 咲蘭	モラン家 Hali Moran (14 歳) 父、母	75 Blueberry Lane, Concord, MA 01742
根岸 遥香	マクスウェル家 Nellie Maxwell (14 歳) 父、母、兄	219 Hunters Ridge Road, Concord, MA 01742
福川 冬真	カーター家 Jake Carter (16 歳) 父、母、兄	166 Harrington Avenue, Concord, MA 01742
西上床春加	ファインバーグ家 Beth Fineberg (14 歳) 父、母、兄	60 Crescent Road, Concord, MA 01742
片渕 天嶺 見延 憧子	フライ家 Sarah Fry (16 歳) 父、母、兄	132 Ember Lane, Carlisle, MA 01741
高田 真由	ゴードィー家 Claire Gordy (17 歳) 父、母、妹、弟	1479 Main Street, Concord, MA 01742
松永菜々子	ルース家 Nora Roos (15 歳) 父、母、弟	36 Wood Street, Concord, MA 01742
鈴木 将之	ジョイス家 Bill & Kris Joyce	646 Main Street, Concord, MA 01742
成田 拓郎 澤田 良太	ネビソン・マクジェネット家 Jack Nevison & Nancy McJennett	500 Thoreau Street, Concord, MA 01742
松本 健吾	ジョンソン家 Tom & Daniela Johnson	460 Strawberry Hill Road, Concord, MA 01742
杉原 太	クラッツリー家 John & Holly Cratsley	10 Edmonds Road, Concord, MA 01742
クリス・ハ ウエル	ハウエル家 Mark & Pam Howell	668 Annursnac Hill Road, Concord, MA 01742

事前研修実施表

事前研修はコンコード訪問までに、意欲や英語力、訪問団員の団結力向上を目的とし、実施しました。また、研修の成果を事後報告会において検証しています。

	日 時	場 所	内 容 (予定)	参加者
第1回研修会 及び説明会	8月6日(木) 18:30~20:00	七飯町役場 201会議室	<ul style="list-style-type: none"> 派遣者自己紹介 事業の概要等の説明 派遣学生の心得 旅程等の説明 パスポート手続きについて 質疑応答 	<ul style="list-style-type: none"> 中高生 町民代表 引率教員 中高生保護
第2回研修会	8月22日(土) 9:00~12:00	七飯町役場 101会議室及び 七飯町歴史館	<ul style="list-style-type: none"> コンコードの概要 (講師:交流推進係長) 七飯の歴史について (講師:文化財係長) 	<ul style="list-style-type: none"> 中高生 町民代表 引率教員
第3回研修会	9月19日(土) 9:00~12:00	七飯町文化センター スペース201	<ul style="list-style-type: none"> 英会話 その他 (講師:クリス・ハウエル) 	<ul style="list-style-type: none"> 中高生 町民代表 引率教員
第4回研修会	10月3日(土) 9:00~12:00	七飯町役場 202会議室	<ul style="list-style-type: none"> アメリカの生活について 英会話 その他 (講師:クリス・ハウエル) 	<ul style="list-style-type: none"> 中高生 町民代表 引率教員
第5回研修会	10月17日(土) 9:00~12:00	七飯町役場 201会議室	<ul style="list-style-type: none"> 英会話(入国審査等) (講師:クリス・ハウエル) 	<ul style="list-style-type: none"> 中高生 町民代表 引率教員
最終説明会	10月23日(金) 18:30~19:30	七飯町役場 201会議室	<ul style="list-style-type: none"> 旅程等の最終確認 質疑応答 	<ul style="list-style-type: none"> 中高生 町民代表 引率教員 中高生保護
壮行式	10月26日(月) 17:00~17:30	七飯町文化センター スペース201	<ul style="list-style-type: none"> 派遣者から抱負 町長、学校長より激励の言葉 	<ul style="list-style-type: none"> 中高生 町民代表 引率教員
事後報告会	2月1日(月) 18:30~20:00	七飯町文化センター スペース201	<ul style="list-style-type: none"> 七飯高校生による報告 事前、事後の心境 ホームステイ体験報告等 	<ul style="list-style-type: none"> 中高生 町民代表 引率教員 中高生保護

二。

者
者
者

～写真で見る交流の様子～



第1回事前研修～
町長から挨拶



第1回事前研修～
派遣者自己紹介



第2回事前研修～学芸員に七飯の歴史や農業に
ついて教えてもらいました



第2回事前研修～交流推進係長からクイズ形式
でコンコードのことを学びました



第3回事前研修～
国際交流員のクリスから英語を学びました



第3回事前研修～
英語で自己紹介の練習

～写真で見る交流の様子～



第4回事前研修～挨拶や自己紹介を実践練習



第5回事前研修～
ドルを使って買い物の練習



第5回事前研修～
コンコードで披露するためにいか踊りの練習



壮行式～
派遣者一人一人が決意表明を発表しました



壮行式～
町長から激励の言葉とホームステイ先へのお土産をもらいました

～写真で見る交流の様子～



壮行式～町長、教育長、各学校長と訪問団



出発式～函館空港にて

～写真で見る交流の様子～



成田空港～JALのチェックインカウンター



ボストンローガン空港～コンコードの皆さんが横断幕を持って出迎えてくれました



コンコードに到着～高校でホストファミリーと対面



コンコードカーライル高校の正面玄関～新校舎が完成しました



600席ある講堂～音楽や演劇の授業のほか、地域の活動にも使われます

～写真で見る交流の様子～



コンコードカーライル高校に初登校



テレビ局 CCTV～校内にある地元のケーブルテレビ局で他の留学生と一緒に番組を収録



ラジオ局 WIQH～校内にはラジオ局もあり、全員で生放送に挑戦しました



校内見学～広い体育館



カフェテリアでランチ

～写真で見る交流の様子～



授業を体験～ホストファミリーの子と一緒に授業に参加しました



農場視察～有機栽培で野菜などを作るクラーク
ファームを見学



ミニットマン歴史公園～国内でも有名で観光客
や修学旅行生なども多く訪れます



高校を表敬訪問～バダラメント校長が出迎えて
くれました



放課後～サイファイクラブの部活動に参加
大きなピザをみんなで食べました

～写真で見る交流の様子～



ボストンの北にあるセーラム市を訪問～
魔女狩りで知られるセーラムはハロウィーンでも有名でとても賑わっていました



セーラムの街で～フライドポテトなどのいろん
な屋台も出ていました



トムさんのお宅でホームパーティー



歓迎ポットラックパーティーは大盛況～ホストファミリーをはじめ、たくさんの方が参加し、美味
しそうな料理が並びました

～写真で見る交流の様子～



ポットラック～杉原課長が代表してお礼の挨拶をし、最後は恒例のいか踊りをみんなで



10月31日はハロウィーン～仮装した子どもたちがお菓子をもらいに近所を周ったり、ホームパーティーをしたりしました



北海道・マサチューセッツ州姉妹提携25周年記念
コンサートにて～CCHS バンドの演奏



ボストン市内のシーフードレストラン～何軒かの家族で集まり夕食を一緒に食べました

～写真で見る交流の様子～



ハーバード大学見学～図書館の前で



クインシーマーケットのレストラン街には色々な種類の食べ物がたくさんあり迷います



農場視察～バレッツミルファーム



農場視察～お客さん自身で収穫できるファーストルートファーム



農場視察～ケーキやサンドイッチなども売っているヴェリルファーム



農場視察～ハッチンズファームのセルフサービス式の直販所

～写真で見る交流の様子～



鈴木先生が交流授業を行いました



音楽の授業



ウォールデンポンドを見学しました



出発の朝～別れを惜しみました



出発の朝～全員で記念撮影



ニューヨーク市に到着

～写真で見る交流の様子～



NYの街はたくさんの人で溢れていました



ロックフェラーセンター～
展望台からは街並みが一望



昼食～チャイナタウンで中華料理



夕食～アメリカンスタイルのステーキ



自由の女神と一緒に



タイムズスクエア～昼も夜もとても賑やか

～コンコードを訪問して～

七飯中学校 2年 浅井 咲蘭

私は、この研修を通じてたくさんの貴重な経験をし充実した 11 日間を過ごすことができました。

☆1日目-日本出発

羽田空港まで 1 時間、成田空港まで 1 時間、そこから 12 時間の長いフライトを経てやっとボストンに着きました。周りを見渡すかぎり外国人に英語。ホストファミリーの待っている CCHS までの景色は想像をはるかに超え目が輝き、これからどんなことが待っているのだろうとワクワクでした。CCHS に着くとホストファミリーが Sara と書いた紙を持ち笑顔で手を振ってくれました。家に着くと 2 匹の猫がむかえてくれました。お土産を交換したら喜んでくれ、うれしかったです。寝る前には



CCHS に到着して

Hali と英語や日本語を教えあったけど、飛行機の中で練習したはずの英語がいざとなるとでてこなくて不安でした。

☆2日目-CCHS 見学・授業参加

起きると外が夜のように真っ暗でびっくりしました。朝食は果物にパン、と意外にもヘルシーでした。この日は制服で登校しました。学校見学では、学校の規模はとて大きく、とくにお菓子の自動販売機に驚きました。その後 CCTV とラジオ局、演技の授業に参加しました。放課後はねぎとホストファミリーと町へショッピングに行きました。そこには公園もあって一度はバスケットがしたかったので出来てとてもうれしかったです。夜はねぎのホストファザーが経営しているレストランで食べました。夜は、親と一緒に宿題に取り組むので、その間にアメリカのアニメを見ました。昨日あった言語の不安も good? や enjoy? など簡単な単語で聞いてくれたのでなくなりました。

☆3日目-セーラム市見学

学校でフランス語の授業を受けてから派遣団のみんなでセーラム市へ行きました。セーラムの歴史を勉強したり、食事、ショッピングをしました。食事は人参、リンゴがそのまま入っていて丸かじりするのでびっくりしました。この日はハロウィンの前日ということもあり街がハロウィン一色でした。家でポップコーンを食べ、話しながら飾るモンスターを作りました。夜はトランプ（アメリカの go fish 日本のはババ抜き）、明日のクッキーを手伝いました。私はいかめしを作る予定だったのですが、時差ボケで疲れていたのので作り方を教えてから寝ました。

☆4日目-ハロウィン



ハロウィン

昨日のいかめしは高評価でした。朝食はパンケーキを手伝い食べました。午前はねぎとそのホストマザーと若草物語オーチャードハウスの見学、そこからパーティーに行きました。

みんなでいか踊り♪その後はパンキンに目や口などをつけ、穴をあけました。色もつけたりろうそくを入れてみると、とてもきれいでした。私はパンキンに仮装をして「trick or treat!!!」Hali、ねぎ、そのホスト先の人たちでまわりました。さすがアメリカのハロウィン。クオリティが高くて楽しかったです。

☆5日目-ボストン

この日は朝からホストファミリーと家に卓球台を見つけ、卓球を楽しみました。ねぎと両方のホストファミリーとボストンに行きました。思ったよりも、都会で思わずはしゃいでしまいました。ショーがすごく盛り上がっていてホスト先の子の真似をしてチップをあげました。街中の迷路や動物のメリーゴーランドに乗ったのが楽しかったです。その後日本食レストランに行きました。懐かしい味でとても美味しかったです。

☆6日目ーボストン・ハーバード大学

派遣団の人たちとボストン、あの有名なハーバード大学に行きました。左足に触ると頭が良くなると言われていたジョン＝ハーバードさんの像にも触れて良かったです。周りにはハーバード関係のお店が立ち並び、グッズを買いました。ボストンでは本場のクラムチャウダーを食べることができうれしかったです。

☆7日目-コンコード観光

独立戦争のオールドノースブリッジ、ミニットマン像、ウォールデン湖を見に行きました。コンコードの歴史を身近に学びました。ウォールデン湖は海のように広くて透き通った水がきれいでした。放課後は美味しいアイスクリームを食べ、サイファイクラブのみんなが開いてくれた最後のお別れパーティーに参加しました。ホストファミリーとは今日でお別れでした。



ウォールデン湖

☆8日目-ホストファミリーとお別れ・ニューヨーク

ホストファミリーに朝、お礼のカードをプレゼントしました。とても喜んでくれて、うれしかったけど最後のハグで悲しくなりました。バスの外からは見えないはずなのに最後まで手を振ってくれました。別れたあと、ニューヨークに向かいました。ニューヨークは見たこともないくらいの都会でとにかく建物の高さや人の多さに驚きました。タイムズスクエアなどの街中を歩きました。

☆9日目-ニューヨーク

この日は丸一日ニューヨークを観光しました。政治の中心である国連やニューヨークの象徴である自由の女神を見たときは感動しました。ホテルでは最後の夜をみんなで楽しみました。

☆10・11日目-帰国

これから日本に帰るのか…と思ったときとても寂しかったです。13時間の長いフライトもなんだか短く感じ、羽田空港に着きました。日本語が目に入った時や、久しぶりのお米を口にした時は安心しました。

私は普通はできない貴重な経験ができたことを誇りに思います。そしてこの研修に携わっている人、周りの人に感謝したいです。夢へ一歩近づけたと思います。今回の経験を自信にかえ、これからの人生、将来に活かしていきたいです。また、七飯町の国際活動に積極的に参加していきたいです。本当にありがとうございました。

～海外交流派遣研修報告～

七飯中学校 2年 根岸 遥香

ずっとずっと憧れていた海外。私はクラスでもあまり目立つ方ではないし英語も全然話せないけど、この海外交流派遣研修のお話を聞いて「立候補しなかったら絶対後悔する！やるだけやってみよう」と思い挑戦してみることになりました。作文と面接を終え、参加できると決まっても当日まで「実はドッキリだったりして・・・」と疑っていました。

当日、朝からずっとわくわくしていましたが、成田空港からボストン行きの飛行機に乗り携帯電話の電波が届かなくなると「11日間家族と会えないんだなあ」と少し寂しくなりました。13時間のフライトは思ったより長く、着陸の時酔ってしまいました。機内で同じ中学校の咲蘭と入国審査の練習をしていましたが本番は緊張して上手く話せませんでした。ロビーに出ると「ようこそコンコードへ！」とホストファミリーの皆さんが歓迎してくださり、とても嬉しかったです。スクールバスでCCHSへ行きホストファミリーのマクスウェルさんと対面しました！お母さんもネリーも優しく不安はすぐに無くなりました。アメリカの家は思った通りBIGで驚きました。日本からのお土産を渡すととても喜んでくれて、おもちが好きだと教えてくれました。その日は疲れていたのですぐ寝ました。人生で1番長い1日でした。

2日目、時差ボケなのか早く起きてしまいました。車でCCHSへ向かうと昨日は夜でよくわからなかったけどすごく大きくてキレイで驚きました。たくさんの方がいてみんなフレンドリーに話しかけてくれて嬉しかったです。校内を見学させてもらうと広い体育館、カフェテリア、コンサートホール、ラジオ局やテレビ局まであって日本と全然違うなあと思いました。ラジオ局ではその日の天気を話したり日本の曲を流した



ハロウィン用のかぼちゃ

りました。午後はネリーと授業に参加しました。授業中にりんごやにんじんを丸かじりしている人がいて驚きました。放課後は咲蘭のホストファミリーとハロウィン用のかぼちゃを買いに行き、夕食はネリーのお父さんが経営するお店でハンバーガーを食べました。おいしかったけど食べても食べても減らない **BIG** サイズでした。

3日目、この日はスクールバスで **CCHS** へ行き、魔女狩りで有名なセーラム市へ行きました。ハロウィンが近いこともあり町全体がお祭りムードで仮装した人もたくさんいて面白かったです。この日の夕食は私がうどんを作りました。「おいしい」と言ってくれて良かったです。

4日目、この日は学校が無かったので若草物語の作者が住んでいたオーチャードハウスに連れて行ってもらいました。行く前に若草物語を読んでいたのが楽しめました。昼はパーティーでいか踊りを披露しました。夜はハロウィンだったので仮装をして家を回りました。とても楽しくて良い思い出になりました。

5日目、この日は咲蘭のホストファミリーとボストンへ行きました。ボストンへ向かう途中、マクスウェルさんのセカンドハウスの存在を知り、衝撃で何も言えませんでした。ボストンは景色がとてもキレイで良い所でした。夕食は日本食レストランでお寿司を食べました。久しぶりのお米で美味しかったです。

6日目も **CCHS** からスクールバスでボストンへ行きました。ハーバード大学では触ると頭が良くなるという銅像の左足を触りました。昼食は名物だというクラムチャウダーを食べました。帰ってきてからマクスウェルさんのお友達の家へ行き、そこで習字で名前を書いてあげたらすごく喜んでくれました。



ボストンの街中で

7日目、この日はアメリカ独立戦争が始まったとされるオールドノースブリッジへ行きました。私は最近世界史に興味があるので本当に感動して、来て良かったと思いました。小説で有名なウォールデン湖は水面がキラキラしていて大沼みたいななあと感じました。

8日目、ホストファミリーとお別れの日。早起きして荷物をまとめると自然と涙がこぼれてきました。こっそり準備していたカードをあげたらとても喜んでくれました。何度もハグをしてバスが見えなくなるまで、ずっと手を振ってくれました。1週間は本当にあっという間でしたが忘れられない思い出になりました。次



ホストファミリーにあげたカード

は英語をペラペラに話せるようになってから会いに行きたいと思います。そのあとバスでNYに向かいました。泊まったウェリントンホテルは年末のカウントダウンで有名なタイムズスクエアの近くで建物が高くて人が多くて驚きました。セントラルパークは人工とは思えないくらいキレイな公園でロックフェラーセンターからNYを上から見た時は言葉にできないくらい感動しました。世界の会議が行われる国際連合本部ビルでは192か国の国旗が並んで掲げられていて圧倒的でした。

9日目、朝から部屋のキーが壊れ、閉め出されるハプニングもありましたがNYのシンボル、自由の女神を見に行きました。想像通り大きくてすごい存在感でした。その後チャイナタウンで昼食をとり、忘れてはいけないあの事故が起きてしまったグラウンドゼロへ行きました。ビルがあった所に大きな噴水が2つあり犠牲者の方々の名前が彫られていました。そこに近づくとつれ違う世界みたいに空気が変わって、静かに水の音が響いていました。私はあの事故が起こったときまだ生まれていませんでした。でも当時のお話を聞き、こんな事が二度と起こらないよう心から願いました。その後もいろいろ買い物をしたりしてアメリカで過ごす最後の日を楽しみました。

翌日、集合時間の30分前に起きたり、バスが遅れたり色々ありましたが、日本に帰ってきました。行く時より時間があっという間に過ぎて驚きました。

11日間、本当に楽しい思い出しかありませんでした。このような貴重な体験ができたのは杉原団長さん始め、たくさんの方々のおかげです。ありがとうございました。また、自分の力の無さを痛感できた研修でもありました。コンコードの皆さんが優しくしてくれるたび自分の気持ちを伝えられないもどかしさを感じました。これからはもっと勉強をしてこの経験を未来の糧にしていきたいです。

～貴重な時間を過ごした 11 日間～

大中山中学校 2 年生 片渕 天嶺

私はアメリカに行き、毎日が夢のようでとても楽しい 11 日間を過ごした貴重な経験をさせていただきました。

1 日目出発 函館→羽田→成田へ

英語で会話出来るか不安でしたが、楽しみな気持ちの方が大きくわくわくしていました。

約 13 時間（貴重な経験）のフライト。

アメリカ、ボストンローガン空港到着。トムさんジュンコさんが「ようこそコンコードへ」と歓迎をしていただきました。憧れのスクールバスで CCHS に着き、ホストファミリーと対面、最初は緊張していましたが、笑顔で話していただき一気に緊張が解れました。

その後それぞれの家へ向かい、家があまりにも立派すぎて驚いていると、ジュードゥさん（お母さん）とサラさんがアイスを用意してくれました。美味しかったです。お土産を渡し、すごく喜んでいただき嬉しかったです。

2 日目

5 時半起床。朝食を食べました。ヨーグルトかシリアルと想像していましたが、Englishマフィンとソーセージでした。広い庭を眺めながらの食事は美味しかったです。



W I Q H ラジオ局にて

学校に着き校内見学、CCTVの留学生フォーラム、WIQHラジオ局に参加。ラジオ局で日本で人気な曲をかけたりフリートークなどすごく楽しかったです。初めての経験でした。午後懂子さんと一緒にサラさんの化学の授業に参加。実験をしました。

3日目



ボストンセルティックス
バスケットボールを見に行きました

5時起床。キッチンへ向かう、4匹の猫のうちルック君が側に来てくれました。可愛かったです。学校へ行くと先生達が魔女やピエロの衣装をしていて驚きました。日本では学校に着くと、各教室で友達と話しますが、アメリカでは、自分の教室が無く先生のいる教室に移動。そのため、メインロビーに毎朝沢山の生徒が集まりとても賑やかです。一時間目だけ授業に参加、魔女裁判で有名なセイラム市の観光。夜、ホストファミリーから頂いたセルティックスのTシャツを着て、バスケットボールのラプターズ（カナダ）との試合を見ることができ、興奮しました。サラさんのチアガールパフォーマンスがカッコよかったです。最高に盛り上がった一日でした。

4日目

ハロウィン当日ジュードゥさんが起こしにきてくれました。午後ランチパーティー、みんなでいか踊りを踊りました。夜、ハロウィン。サラさんとサラさんの友達と懂子さんの5人で回りました。庭にはお墓、ガイコツ、ユニークなものが飾られ、小さな子供達はカボチャやドレスを着てとてもとても可愛かったです。私達もキャンディなどをもらい楽しみました。



ハロウィン

5日目

ホストファミリーと過ごす日。
午前ボストンのニューベリー・
ストリート(有名な道)を歩き、
スターバックスへ連れていただき、
大人の気分でした。この通りは、
レンガのような建物が多
いステキな街並みで、やはり外
国だなあと思いました。その後
ボストンに住んでいる懂子さん
のおばさんに会うため第一科学
者キリスト教会に行きました。
世界で8番目の大きさの綺麗な



ニューベリーストリート

パイプオルガンの音が教会中に響き、凄く引いてみたいなと思っていたところ、おばさんの旦那さんがパイプオルガン奏者で、私達にパイプオルガンを弾いてくださったり、私も弾かせていただけました。

6日目

ハーバード大学を見学。触ると頭が良くなると言われているジョン＝ハーバードさんの足を触ったり買い物をしました。

7日目

ホストファミリーと過ごす最後の1日。お別れを考えると寂しくなりましたが、気持ちを切り替え楽しく過ごそうと思いました。コンコードに来てから車に乗る時はいつもサラさんと歌を歌ったりしていましたが、この日の朝もサラさんと好きな歌手の話をしたり、歌ったりしました。私は洋楽が大好きなので本当に楽しかったです。

英語・化学・教育の3つの授業を受けノートに書いたりしました。アメリカでは、コンピューターを使った授業が多く、黒板が無くスクリーンを使っているすごいなと思いました。授業中立ちたり教室の出入りが自由で、最初は驚きました。日本との違いが沢山あることが分かりました。何度か会った生徒の方もあいさつをしてくれ、どの先生方も優しくかったです。

8日目

ホストファミリーとお別れの日。初めて会った時は緊張で話せませんでしたが、この頃には慣れて話せるようになり、お別れが辛かったです。ジュードゥさんが「またすぐ帰ってらっしゃい」と言って下さり、ハグをして

お別れをしました。あっという間の8日間でした。私達はバスで出発。たくさんの方が手を振って見送って下さいました。

8日～9日目 ニューヨーク自由の女神展望台から見た景色は高層ビルがたくさん建っていてニューヨークの中心部の景色を見ることが出来ました。さすが世界のニューヨークと思いました。夜のニューヨーク（タイムズスクエア）。たくさんのスクリーンに溢れる映像、昼間と間違える明るさとたくさんの方で賑わっていました。どこを見てもニューヨークそのものでした。



自由の女神

10日～11日目 日本へ帰ってきました。

周りから日本語が聞こえてきて懐かしさでホッとしましたが、まだアメリカにいたかったと思ひ寂しかったです。コンコードは街並みが綺麗で緑も豊かでステキな所でした。他の人にもあの景色を知って欲しいです。今回の海外派遣研修交流会に参加させていただき貴重な体験や経験をすることができました。また、アメリカへ行きたいです。本当にありがとうございました。

～あたたかいぬくもり～

大中山中学校 2年 西上床 春加

小さい頃から、憧れていた海外。いつか行ってみたいと思っていた海外。その強い思いを胸に、作文や面接を乗り越え、行かせてもらえると決まった時は、とても嬉しかったです。

コンコードへ行く前に事前研修が数回あり、私が住んでいる七飯町について知らない歴史などをたくさん学びました。英会話では、うまく話せなかったりと苦労し、不安になったこともありました。

1日目～出発の日～

以前から海外に行くことを心配していた家族と言葉を交わし、函館ー羽田ー成田ーボストン空港に計 14 時間以上かかりましたが、機内ではゲームをしたり、映画を見たりと楽しい時間を過ごせました。空港で、たくさんの外国人を見た時は、体の大きさにびっくりしました。研修で苦労した入国審査の練習。緊張でガチガチになりながら、審査員にパスポートを見せ、OK が出た時はホッとしました。全員が入国審査を終えた後、スクールバスに乗りホストファミリーが待つカーライル高校に行きました。私のホストファミリーであるスーザンさん、マックス君、ベスちゃんと対面した時は、緊張で全く話すことが出来ずにいたら、そんな私にスーザンさんが「私たちが日本語を話せないことに比べたら、あなたが英語を話せることは素晴らしいわ。間違ってもいいのよ」と声をかけてくれ、思わず泣きそうになりました。歓迎会が終わり、ホストファミリーの家を見た時は、大きさにびっくりしました。



ホストファミリーの家

2日目～学校へ登校～

学校に行く時間は早く、オレンジ一個を口に入れ、車で学校へと向かいました。マックス君と理科、歴史、数学などの授業を受けた時は、黒板ではなくスクリーンを使っていることにびっくりしました。授業が終わると、

ラジオに出演するなど貴重な体験をすることが出来ました。学校が終わり、スーザンさんとコンコード町にあるアイス屋さんや古いおもちゃ屋さんに行き、たくさんの人形やパズルなどを見ました。

3日目～ハロウィン前日～

学校に行くと、生徒や先生方は仮装をしていてとても賑やかでした。マックス君が授業を受けている間は、「魔女狩り」で有名なセーラム市に行き、話を聞きながら昔の人々の思いを深く考えることが出来ました。放課後は、ホストファミリーと一緒に買い物をしたり、以前から楽しみにしていたハンバーガーを食べました。思っていた通り大きく、食べきれませんでした。

4日目～ハロウィン（休日）～

午後からパーティーがあり、食事をした後、イカ踊りをみんなで踊って楽しかったです。パーティーの後は、スーザンさんとボストン美術館に行き、たくさん絵や銅像を見て歴史を深く学ぶことが出来ました。夜は、大きいピザを食べ、ベスちゃんとその友達と三人でハロウィンの仮装をし、たくさんのお菓子をいただきました。

5日目～休日、サムさんと初対面～



オーチャードハウス

お父さんのサムさんが出張に行っていたため、この日が初対面でした。レシピ本を見ながら、一緒にアップルパイを作りました。リンゴの皮を速くむける機械があり、ハンドルを回すとスルスル皮がむけビックリしました。昼は、庭でベスちゃんと一緒に私の大好きなバドミントンをして楽しみました。

6日目～ハーバード大学～

ボストン市内にあるハーバード大学を訪れることが出来ました。大学は、とても大きく、さわると頭が良くなると言われている有名な銅像の左足をさわることが出来ました。昼食は、クラムチャウダーを食べました。思ったより量が多くて食べき



ボストン美術館

れませんでした。放課後は、バスちゃんと図書館やスタバに行ったりしました。

7日目～オールドノースブリッジ・ウォルデン湖～

独立戦争が始まった橋「オールドノースブリッジ」、とてもきれいな「ウォルデン湖」を見ることができました。オールドノースブリッジでは、戦争が始まったと思うと心が痛み、ウォルデン湖では、水がとてもきれいで冷たかったです。

8日目～お別れの日～

お別れの朝。「はるか、あなたは私たちの家族の一員よ。いなくなると寂しいわ。」とおっしゃってくれ、涙がぼろぼろ流れてしまいました。そんな私を、ホストファミリーは優しく抱きしめてくれました。私は、バスの中から「また、コンコードに絶対来よう」と心に誓い、感謝の気持ちを込めて思いっきり手をふりました。

～初ニューヨーク～

この目で見ることができたニューヨークは、大きなスクリーンによって夜でも明るく、にぎやかでした。展望台から見た景色、自由の女神、9.11のビル、夜のニューヨークの街並みは決して忘れません。

ホストファミリーと過ごした楽しい日々。時には、言葉が通じなくて苦労し、時には共に最高の笑顔で笑い合いました。優しさなど、目には見えない大切なものを知り、感じることができました。改めて、この七飯町で育って良かったなと思いました。町長さん、研修を開いてくださったみなさん、そして、家族。心から感謝の気持ちを込めて「本当にありがとうございました。」これからも、七飯町を愛し、コンコードの方々が七飯町に訪れた時は、最高の笑顔で迎えたいと思います。



自由の女神

～海外派遣研修レポート～

大沼中学校 2年 福川 冬真

10月28日

朝起きたのは、確か6時ぐらい。緊張や不安などはなく特にいつもの朝と変わらなく、強いていうと忘れ物は無いか？ということだけでした。函館空港に集合し、荷物点検をして、さあ、出発。見送りにきてくれた学級担任の先生のカメラにいつも通りのキュートなキラースマイルを贈ったら、、、「緊張しているのかー」と言われ、そこで初めて「海外に行くんだー」という実感がわきました。飛行機に乗り羽田空港へ移動、バスで成田空港に行き昼食をとり、ボストンに移動。機内では、映画を見たり、音楽を聴いたり、様々なことをしていましたが長かったです。「いつ着くんだ？」と思うこと12時間ちょっと。ついにボストンに到着。しかし、体調が悪いせいか、疲れているせいか、「アメリカに着いた。」という実感があまりわきませんでした。ただ、まわりの人がアメリカ人のせいか、とても多くの視線を感じました。同時に、緊張も出てきました。入国審査です。事前研修会で練習したにも関わらず、緊張しました(まあ無事に通ったけど)。ボストンからバスでコンコードに移動。カーライル高校でホストファミリーと会い帰宅。まず、家を見た時に「広い」「大きい」「美しい」の三文字が頭の中に出てきました。中に入ると、プールはあるし、客室はあるしと驚きがたくさんでした。その日のうちにお土産を渡しました。中身はハイチュー、キットカット、とんがりコーン、そしてけん玉。ホストファミリーは大変喜んでくれました。その日は夜遅い時間だったので、すぐに寝ました。

10月29日

目が覚め時計を確認すると、朝4時。まだこんな時間か、と思い寝ようとするけど目が閉じない。時差ぼけになってしまいました。そのまま朝食を迎えました。メニューは、シリアル、ヨーグルトにミルクでした。普段なら、すぐに食べきれぬ量だったのに、時差ぼけのせいか食べ終わるのに30分掛かってしまいました。6時50分に家を出てスクールバスに乗り学校へ。玄関に入ると大勢の生徒で溢れていました。この日は、初めにCCTVの留学生フォーラムに参加、コンコードと日本の違いなどについて議論しました。次に、WIQHラジオ局に参加。カミカミだったけど楽しかったです。カフェテリアで昼食をとり昼休みにはホストファミリーのジェイクとパソコンを使って一緒に音楽をつくりました。午後の授業にも参加しまし

た。ジェイクが言うには、心理学についてで内容はわかりませんでしたが見ていて楽しかったです。

家に帰ってからはジェイクと卓球をしました。ジェイクはテニスをやっていたらしく上手でした。

それからは、晩ご飯を食べ、お風呂に入りすぐ寝ました。

10月30日

朝食はダンキンドーナツという店で買い、登校中の車内で食べました。学校に着き、体育の授業に参加、ジェイクのクラスメイトと一緒にバスケットをしました。次にセーラムに行ってきました。ハロウィン間近ということもあり仮装している人も多くおもしろかったです。セーラムでの自由時間では、ピンクのパーカーにピンクの帽子を買いました（冬真君はピンクを愛しています）。一緒に言った8人の学生みんなからは「ピンクマン」と可愛いあだ名をつけてもらいました（ありがとう）。観光も終わり帰宅しました。ジェイクは日本のアニメを見ていました。冬真は質問しました。「one ok rock（ワンオクロック）っていう日本のアーティスト知ってる？」ジェイクは「知ってるよ」と言いました。ジェイク以外の人も「嵐」「平成ジャンプ」など日本のスターや「進撃の巨人」など日本のアニメを知っている人もたくさんいました。

晩ご飯はハンバーガーを食べ、その後にジェイクとゲームをして遊びました。ジェイクはゲーム好きでもあり、様々なゲームソフトをもっていました。また、この日は、コンコードカーライル高校のアメリカンフットボールの試合を見てきました。専用スタジアムがあり、たくさんの生徒が応援に来ていました。しかも、チアガールもいました。日本にはあまりない新鮮な体験でした。

10月31日

この日は休日。午前中は、ジェイクと一緒に近くの農家さんのところへバイトに行きました（本当に給料もらいました）。その後にホストファザーのハリーと、午後の海外交流研修員とそのホストファミリーのランチパーティのお買い物にコンコードのスーパーに行ってきました。店は大きく、品揃えも豊富で、サイズも大小様々あり、主婦には大変素晴らしいお店でした。



ランチパーティの前に
投げて遊んだ可愛いやつ

そして、午後からランチパーティ。その日は、ハロウィンということもあり、パーティ開始前からホストファミリーの皆さんがプニプニした可愛いやつを投げて遊んだりしました。パーティでは各家庭の料理を味合わせていただきました。とてもおいしかったです。ある程度食事が終わると、事前研修会でも練習した「いかおどり」を「イカマン」こと杉原団長を筆頭に披露するはずが、コンコードの皆さんも知っていて、踊れる人もたくさんいました。かなり、ビックリしました。パーティも終わり、この日はハロウィンのため、家に戻ってから、ハロウィンランタンを2個作りました。夜になると、アナと雪の女王に登場するオラフの可愛い衣装をして近くの家をまわり、お菓子をたくさんもらいました。日本の七夕を思い出しました。

11月1日

この日も休日。朝早くホストファミリーとボストンの教会に行き、お話を聞いてきました。ハリーに、何の集い？と聞くと、生活困難な人たちを支援する会、と言っていました。お話の合間には、スクリーンに生活困難な人たちを支援している姿や色んな人の笑顔が映し出されていました。よくわからなかったけど、感動しました。その後、ボストンの店に寄り、ホストファミリーがボストンティーシャツを買ってくれました。午後は、北海道、マサチューセッツ州姉妹提携25周年記念コンサートを見に行きました。印象に残ったのは、アメリカの合唱団が歌った日本の歌で、聴いていて涙が出てきました。聴いていて、「いつまでも、姉妹都市の関係が続けばいいな。」と思いました。その日の夜もジェイクと遊びました。

11月2日

この日はボストン観光。ハーバード大学の寮の敷地内を見たりしました。コンコードもセーラムもボストンも見ただけでもおもしろいし、何より自然がきれいだな～と思いました。自由時間では、ピンクを極めるためにマフラーを購入（根岸はるか＝「ネギ」が見つけてくれました）。また、道端で恥ずかしいポーズをやらせられたりしました（笑）。観光が終わり、ジェイクと帰宅しました。ジェイクは「今日、彼女が来るんだ。」と喜んでいました。ジェイクの彼女は優しく、お姉さんのような雰囲気でした。その日の晩ご飯はホストマザーのジョイスが仕事でいなかったため、近くの中国人経営の日本食レストランに行ってきました。メニューには、確か、「レッドソックス寿司」というものがあつたので注文しました。出てきたものを見ると、それは、ロールケーキの寿司バージョンでした。ともかく、ネタはいくら、サーモンと美味しそうだったので食べてみました。中には、

海老フライという伏兵が潜んでいてビックリしました。その後、アイスみたいなヨーグルトを食べました。

11月3日

CCTVに参加し、コンコードの生活について話し合いました。コンコード初日に比べ、緊張もほぐれたせいか、まともに話すことができたと思います。CCTV終了後、コンコード町内を見学しました。アメリカ独立戦争最初の戦場でもあるオールドノースブリッジやミニットマン像などを見てきました。静かで「本当に戦争があったのか？」と思いました。また、そこに流れる川もきれいでした。高校に戻り、昼食を食べ、5時間目は自由だったため、休みました。一度帰宅した後、コンコードにある美術館でパーティをしました。次の日がニューヨークへの出発日だったので片付けをしてすぐ寝ました。

11月4日

ホストファミリーとお別れの日。少し悲しくなった日。この日は朝から涙が止まりませんでした。朝起きて泣き、家を出るときに泣き、そして、お別れするときにも、泣きました。勝手に涙が出てきました。別れの時、ジェイクは「4月に日本に行くから、また会おう」と言い、ジョイスは、「私たちが出会えたという



ロックフェラーセンターにて

奇跡を忘れないでほしい。そして、冬真は私たちの家族でもあることを忘れないで」と言ってくれました。バスに乗りコンコードに別れをつげました。さて、朝から泣いて疲れたのか、バスではほぼ寝ていました。ニューヨークに着いてからは、コンコードとは全く違う空気で人が密集していました。同じアメリカとは思えないほどの違いでした。ホテルでチェックインをすまし、昼食（ハンバーガー）を食べ、ロックフェラーセンターに行きました。ロックフェラーセンターは70階もある展望台。ここでも、持ち物検査があり、なかなかの厳しさでした。無事検査も通り、超高い場所からニューヨークを見渡しました。素晴らしい眺めすぎて、「ここから飛

び降りてあちらの世に行きたいな～」と思いました。その後、ホテルに戻り、近くのレストランに晩ご飯を食べにいきました。歩いている途中にタイムズスクエアの近くを通りました。CMで見ている場所に自分がいることが、嘘のようで、ちょっぴりうれしかったです。晩ご飯はイタリアンレストランで食べました。帰りの途中で「ディズニーショップ」や「m&m」に行き、お買い物。特に何も買いませんでしたが、見ただけでとても楽しかったです。ホテルの部屋はとても広く、高級感で溢れていました。疲れていたため、すぐに寝ました。

11月5日

この日の朝食はホテルのレストランでフレンチトーストをいただきました。日本と同じような味で食べやすかったです。食後、向かいのスターバックスで時間を潰しました。この日のはじめは「自由の女神」を見てきました。印象は「壮大」、の一言です。生で見ると、ホントに大きい。感動というより、驚きの方が強かったです。今回は見ただけだったので、次行った時は登ってみたいと思いました。その周りも歩いてみましたが、ニューヨーク市街に比べ静かでした。この日の昼食場所は、1年の英語の教科書にも出てきた「チャイナタウン」。久しぶりの中華料理（初めての本場？かもしれない）。久々に食べたものばかりでした。午後からは、お買い物。クリスと一緒にピンクのズボンを探しましたが、見つからず（ピンクのズボンがあれば、全身ピンクにできました。残念。）。また、晩ご飯はホテルの近くでスペアリブをいただきました。また、ホテルの帰り道の途中でお買い物。再度、ディズニーショップに寄り、雑貨店のような場所にも寄りました。ここで、ピンクの耳掛けとトランプを購入しました。ホテルに戻り、荷物の確認をして、ソファに座っていたら、そのまま寝てしまいました。

11月6日

日本に帰る日。コンコードと同じように、「もっといたかったな～」と思いました。空港では無事に検査を終え、飛行機に乗ることができました。飛行機内では色んな事（前の座席のカップルらしき人の Kiss シーンや、寝ている間に隣の席に侵入したことなど）がありましたが、無事日本に帰国。アメリカとの空気の違いを感じました。途中羽田空港で杉原さんにラーメンをおごっていただきました。ありがとうございました。函館行きの飛行機でも、寝ている間に隣の席に侵入していましたが、なんとか函館に着き、自分の家に帰った時は疲れ果てていました。その日はぐっすり寝ました。

終わりに

今回の研修で学んだことは何でしょう？コンコードの歴史？文化？英語力？それもありました。だけど、もっと別なことを学んだ気がします。はっきり自分でも、分かっていません。ただ、ホストファミリーや学校の先生、生徒と関わっていく上で常に暖かいもの＝「愛」？を感じました。別れの際にジョイスが言ってくれた言葉。あの言葉を聞いた時、本当の家族になれたのではないか？そう思います。「人生の価値は息をした数ではなく、心奪われ、息をするのも忘れる瞬間を経験した数で決まる」と、アメリカの活動家であるマヤ・アンジェロウは言いました。今回の体験はまさにこの言葉のようになったと思います。11日間の短い間で、笑ったり、泣いたり、かけがえのないものがたくさんできました。また、今回の海外研修に参加するにあたって、たくさんのご迷惑をおかけしました。家族はもちろん、研修に参加した14人でぼくが一番、時差ぼけなどでご迷惑をおかけしたと思います。そんな中、支えてくれた皆さん、ありがとうございました。この分は、出世払いで恩返ししたいと思います。

今回参加をすすめてくれた家族、協力してくれた先生方、役場職員の皆様、ホストファミリー、一緒に行った13人の皆さん、ホントにありがとうございました。

～コンコード海外派遣研修 10.28 から 11.7～

七飯高等学校 2年 松永 菜々子

コンコード海外派遣研修に行ったときの出来事をまとめました。

～1日目～10月28日

今日はコンコードへ出発の日

朝早くから函館空港に集まりみんなで飛行機に乗りました。飛行機は乗継で、成田空港から13時間くらいずっと飛行機に乗っていてやっぱり長い時間同じ姿勢なので疲れしました。でも、見たかった映画を何本か観れたので良かったです。

ボストンに着きカーライル高校までは、スクールバスで向かいました。ホストファミリーの人たちが迎えに来てくれていて歓迎してくれて、嬉しかったです。

～2日目～10月29日

ノーラの友達の手で一緒にカーライル高校に行きました。この日は、テレビの取材を受けました。また、ラジオも実際にやらせてもらいとても緊張しましたが、楽しんでやることができました。そのあと授業に参加して、やっぱり日本と違うところがいっぱいあってびっくりしました。もうすぐハロウィンなので大きいかぼちゃを買いにいきました。その大きさも日本にはない大きさなのですごいびっくりしました。



ハロウィン ルース家にて

～3日目～10月30日

今日は、ハロウィン1日前で学校では仮装している人が多かったです。これも日本では少ないのでとても新鮮でした。ママが魔女の帽子を貸してくれて、私はそれをかぶって学校に行きました。

家に帰った後ハロウィンのためにかぼちゃを彫ってつくりました。初めてやったので、とてもおもしろかったです。うまくできました。

そして、真由さんのホストファミリーの人たちとラグビーの試合を見に行きました。

～4日目～10月31日

今日はハロウインの日！
派遣者とホストファミリーのみんなでパーティーをしました。ご飯がすごく美味しかったです。みんなで踊りたいか踊りも楽しかったです。そのあと、ハロウインなので仮装しました。日本ではあまりすることがないのでとても楽しむことができました。

～5日目～11月1日

今日からサマータイムが終わって日本との時差が-14時間になりました。でも、体ではあまりわかりませんでした。パパとノーラとボストンに遊びにいきました。アメリカは自然が豊かでとてもいいなと思いました。景色がきれいで建物もおしゃれに感じました。
この日は、私が日本から持ってきたインスタントのラーメンを作って食べました。少し伸びてしまったけど美味しいと言って食べてくれました。

～6日目～11月2日

学校が始まる時間が日本に比べてすごく早いので朝が大変でした。改めて、こっちの学校には昼休みしか休み時間がないことなどに驚きました。
派遣者の人たちみんなでボストンに行きました。ハーバード大学の庭に入ったり外から図書館を見たりしました。建物の大きさにびっくりしました。

～7日目～11月3日

学校にいて2回目のテレビの取材を受けました。アメリカと日本の違いについて話しました。ルース家とゆっくり過ごせるのは今日が最後の日で、もうすぐお別れだと思うと寂しく感じました。派遣者とホストファミリーのみんなでお別れ会をしました。
すごく楽しむことが出来ました。

～8日目～11月4日

ホストファミリーとお別れの日
朝早く集合してお別れをしました。すごく寂しかったです。1週間くらい一緒にいたのでたくさん思い出ができました。バスに乗ってからも最後ま

で手を振っていてくれてすごい嬉しかったです。
それから、ニューヨークに向かいました。バスの中はすごく楽しくていっぱい笑っていました。
ニューヨークについてからいろんな場所をまわりました。人の多さにびっくりしました。

～9日目～11月5日

コンコード派遣研修最終日

自由の女神など見に行きました！島の上にあることなど知らなかったのでびっくりしました。セキュリティチェックの厳しさにも驚きました。

3人おそろいのトレーナーを着て自由の女神をバックにいっぱい写真を撮りました。

お昼は、チャイナタウンに行って中華料理を食べて他にもいろんな場所にいきました。初めて見るものばかりなのですごく新鮮でした。夜なのに外は明るくて都会だなと感じました。



自由の女神にて

～10日目～11月6日

今日は朝早くニューヨークを出て空港に向かいました。セキュリティチェックを受けて飛行機に乗りました。日本まで13時間くらい乗りました。ずっと同じ姿勢なので少し大変でした。日付が変わるので、日本に着いたのは、11月7日でした。無事日本に着けたので良かったです。飛行機を乗り換えて函館に帰りました。空港には、お母さんたちが迎えに来てくれていて家に帰りました。1週間ちょっとだけど、みんなと一緒にいたので少しさみしかったです。

最後に全体を通しての感想を書きたいと思います。

～感想～

私は、今回このコンコード海外派遣研修に参加することができて本当によかったと思っています。海外に行ける機会は少ないと思うし、行ってみたいとわからないこともたくさんあると思うので、このような体験をすることが出来て嬉しく思います。短い期間でしたがアメリカに行き学んだこ

とはたくさんあります。アメリカに行って学んだことを忘れずに学校生活を過ごしていきたいです。

また、アメリカに行きルース家のみんなに会いたいです。4月にノーラにまた会えることをすごく楽しみにしています。人とのふれあいについても学ぶことができました。ルース家のみんなは私にすごく優しく接してくれてとても楽しく過ごすことができました。英語をうまく話すことができないうちに私に思っていることを伝えようとジェスチャーなどを使って伝えてくれました。私も思っていることを伝えることができた時すごく嬉しかったです。離れるのは寂しかったけど、ルース家のみんなと楽しい時間を過ごすことができ本当に良かったです。最高の思い出ができました。

～海外研修～

七飯高等学校 2年 高田 真由

あれから数ヶ月が経ちました。たくさんの出来事がありましたがごく僅かをここに残します。まず、私が海外研修に参加した理由は、将来、国際看護師になりたいという夢があるからです。英会話はもちろん、人とのコミュニケーションの取り方などを実際に経験できることに感謝の気持ちをもってこの海外研修に参加しました。

一日目

成田空港を 28 日の 18:30 に出発してボストンのローガン空港に着いたのは 28 日の 18:00 でした。日付変更線を超えて約 13 時間のフライトだったので疲れもあり、時差ボケもありました。スクールバスでカーライル高校へ向かうとホストファミリーが出迎えてくれました。パパからコンコードのマグカップなどたくさんのお土産をもらいました。日本からのお土産の抹茶のお菓子や漫画などを渡すととても喜んでくれ嬉しかったです。

二日目

朝、ママが部屋をノックして起こしてくれました。準備を終え、朝ごはんを食べた後クレアとずっと喋っていました。学校では校内見学をした後、クレアとアビーのクラスの授業に参加しました。数学、フランス語、生物学、基本が英語での授業だったので何を言ってるかわかりませんでした。放課後はサイファイクラブに参加しました。ピザを食べたりして楽しかったです。

三日目

朝、スクールバスに乗って学校へ。この日とても具合が悪く、保健室で過ごしました。アメリカではジンジャーエールを飲むと具合がよくなるそうです。途中で早退し寝込んでいました。ホストファミリーに迷惑をかけてしまいました。

四日目

具合は治らず、ママとパパは病院に電話してくれたりして本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。体は持たず、ジュンコさんの家で過ごすことになりました。ホストファミリーは最後まで優しく「またいつでも来てね」と言ってくれました。

五日目

ジュンコさんの家で日本食を食べ、徐々に体調は良くなっていきました。ずっとそばにいてくれて話しかけてくれました。ですがやはり寝込んでしまいました。

六日目

この日は体調が結構良かったので研修メンバーとハーバード大学など色々な所へ見学しに行きました。マーケットはとても大きく驚きました。解散後、ジュンコさんはメイシーズというショッピングモールに連れて行ってくれました。欲しかった靴も買えたので良かったです。オーチャードハウスにも連れて行ってくれました。夜は星を見ました。

七日目

ジュンコさんはこの日、日本に帰るといことでお別れをし、学校の授業に参加しノースブリッジを見に行きました。夕方からお別れパーティーに参加しました。とても楽しく時間があっという間に過ぎました。この日はクリスの家にホームステイすることになり、ママとも楽しい会話ができました。



お別れパーティーの様子

八日目

お別れの朝、ママとパパに「いつでも家においで」と言われ涙が溢れました。ゴードイ一家も見送りに来てくれてここでも涙。恵まれた環境にいて幸せを感じました。バスでニューヨークへ向かいタイムズスクエアや五番街などへ行きました。テレビや雑誌で見たことのある場所へ行けたことに今でも驚きを隠せません。街中はお祭り騒ぎでとても楽しかったです。



朝、クレアとアビーと記念撮影

九日目

ホテルでオシャレな朝食を食べました。自由の女神を見に行くためにフェリーに乗らなくてはいけないことに驚きました。チャイナタウンやソーホー、ミッドタウンなどへ行きました。夜はタイムズスクエア周辺でご飯を食べました。



NYの空港にて



自由の女神と

十日目、最終日

朝ごはんはホテルの目の前にあるスタバで。バスでニューヨークの最南端にある空港へ向かい、13時間かけて日本へ。日付変更線を越えるのでまた少し時差ボ

ケがありました。函館空港ではたくさんの方が出迎えてくれ温かさを感じ、ほっと一息つきました。

何もかもが初めてだった今回の研修。言葉が通じなくて戸惑ったり慣れない環境に対応できず体調を崩してしまったりして大変でしたが、役場の方、クリス、ジュンコさん、コンコードの皆さん、ホストファミリー、研修メンバー、数えきれないほどのたくさんの方々に助けてもらったおかげで体調も良くなり最後までこの研修を成し遂げることができました。心の底から感謝の気持ちでいっぱいです。もう同じような研修は二度とできません。11日間を過ごした時間や思い出を一生忘れません。たくさんのお礼を込めて。

～七飯町海外交流派遣研修を終えて～

町民代表 農業後継者 成田 拓郎

はじめに、このような貴重な機会を頂き、感謝申し上げます。今回初めての海外でしたが、5回の研修でコンコードの歴史や英会話などを学んだことで、ほとんど不安もなく出発する事が出来ました。

研修から1ヵ月が過ぎ、一番思い出すのはホストファミリーと過ごした時間です。お世話になったジャック・ナンシー夫妻は、長年七飯の訪問団のホストファミリーをしており、以前にホームステイをした派遣者からとても良い人達だと聞いていました。コンコードカーライル高校（CCHS）での対面歓迎式で、2人に初めて会った際、笑顔で出迎えてくれたことで緊張がとけたのを覚えています。

一番不安だったのは、片言でしか話せない英語での会話でしたが、理解できるまで何度も繰り返し繰り返し話してくれて、時には辞書や携帯を使いながら問題なく過ごすことが出来ました。食事に関してアメリカのイメージは、肉がメインで脂っぽい物を多く食べているイメージでしたが、ホームステイ中



庭でのゴルフ練習

に出た料理で言うとその様なことはなく、朝はパンにコーヒー、スクランブルエッグに野菜といった感じでした。夕食はパーティーが多く、家庭料理を食べる機会はありませんでしたが、どの料理も非常に美味しかったです。唯一苦手だったのが、オートミールという日本で例えたとお粥

に近いものにバターやハチミツを加えたもので、アメリカでは朝食によく食べるそうです。通訳のジュンコさんに話すと、「塩で食べるのが一番」と聞いて間違いないかと納得しました。

日曜日は、1日ホストファミリーと過ごす日で、2人のお気に入りだというボストン美術館に連れて行ってくれました。アメリカ内でBEST3に入る美術館で、日本の美



ボストン美術館 天心園

術品も多く展示していると聞き、とても楽しみにしていました。想像を超える大きさに加え、老若男女様々な人種のお客さんでいっぱい、ランチに館内のレストランに行くと満席で入れない程混雑していました。日本の物は、刀や着物、仏像や巻物など幅広く展示してあり、中でも一番印象に残っているのが、外の敷地内に作られた天心園という庭園で、日本にいと錯覚する程忠実に作られた作品でした。なぜ日本の美術品が多いのか調べると、ボストンは、貿易港としてアジア諸国との関係が深かったこともあり、アジア地域の収集に力を入れていたようで、特に日本美術のコレクションは、日本国外にあるものとしては質・量ともに最も優れたものとして知られているそうです。アメリカで見る日本の作品は普段見る時よりも素敵に感じました。

コンコード滞在中は、アメリカ独立戦争の舞台である「オールド・ノースブリッジ」、そこで新聞記者という男性から少しインタビューを受け、今なお注目度の高さがうかがえました。日本でも有名な若草物語を書いた、ルイーザ・メイ・オルコットが住んでいた「オーチャードハウス」、ここでは、ルイーザ本人に扮した



ハロウィンパーティー 可愛い子供達

館長のジャンさんが芝居を見せてくれました。他にも、コンコード近郊の魔女狩りで有名なセイラム市に行き、ハロウィン間近とあって仮装した人やお店でとても賑わっていました。



別れの日 ジャック・ナンシーと

そして、視察のメインでもある農場見学は4つの農場に行くことができました。どの農場もオーガニックにこだわっており、たくさんの貴重な話、日本で馴染みのない野菜や果物を見れて面白かったです。一番見たかった果樹園は、時間が押してしまい、通訳なしで先に一人でいくハプニングもありましたが、滞在7日目

で英語に少し慣れたのか、何とか理解することが出来ました。収穫したリンゴを見ると、病害虫による被害や色味の悪いものが多く、日本では売れないなというのが率直な印象でした。しかし、オーガニック商品を求めるお客さんがとても多く売れているそうです。「環境の保全」「食品の安全性」「自然との共生」などオーガニックには、多様な目標があり、あまり知識のない私には、新鮮でとても興味深いお話でした。

コンコード出発の朝、大勢の方が見送りに来て下さり、別れを惜しみつつニューヨークへと出発しました。車中思い出に浸かっていると、ナンシーからとても温かいメールが届き、改めて2人と過ごした時間が自分にとってかけがえのない大切な時間だったんだと実感しました。

ニューヨークでは、自由の女神、セントラルパーク、ロックフェラーセンター、グラウンドゼロなど、多くの観光地を訪れることができ、アメリカ同時多発テロが起きた場所を直で見ることができたのは一生の思い出です。

泊まったホテルは、タイムズスクエアから近く、ゆっくり観光することができました。昼夜を問わず多くの人で溢れかえっており、一つ一つのショップも規模が大きく驚きました。夜中でもパトカーのサイレンや車のクラクションが鳴り響き、前日までのコンコードとのギャップに戸惑ったのも良い思い出です。



自由の女神



タイムズスクエア

ニューヨークは、思い描いていたよりも魅力的な素晴らしい街でした。

最後になりますが、ホストファミリーのジャックとナンシーをはじめ、コンコードの皆様のおかげで暖かいおもてなしに感謝の気持ちでいっぱいです。また、このような貴重な経験の場を与えてくださった七飯町の関係者の皆様、ありがとうございました。

～夢のような 11 日間～

七飯高等学校 2 年 見延 懂子

中学の頃から、ずっと行きたかったコンコード。様々な出会いや貴重な体験をすることができ、夢のような 11 日間でした。

出発当日。実感が湧かないままボストン空港へ！13 時間のフライトは人生初だったので緊張しましたが、意外とあっという間でした。

入国審査を終え、ボストン空港を出発。初めてスクールバスに乗りカーライル高校へ！高校に到着すると、たくさんの人達が歓迎してくれました。

そしてホストファミリーとの初対面。緊張で固まっている私を、暖かい笑顔で迎えてくれ嬉しかったです。家は私の家の 3 倍くらい大きくて素敵で、4 匹の猫を飼っているのですが、とても可愛かったです。お土産を渡すととても喜んでくれ、一緒に折り紙や竹トンボで遊び楽しかったです。私は天嶺さんと同じホストファミリーだったので協力して、単語中心ではありませんでしたが、七飯のことを説明したり、楽しく話せました。

《2 日目》

朝早く車で高校に向かう道中、映画のワンシーンのような綺麗な景色と自然の豊かさに感動しました。

カーライル高校は七飯高校よりとても大きく、廊下の壁にはテレビがついていたり、ホールやジムなどがあり驚きました。学級制が無く受けたい授業を選択できたり、授業中にパソコンを使えるのは日本の大学に似ていると感じました。

午前には校舎内のテレビ局とラジオ局に行き、出演しました。緊張して上手く話せませんでしたが良い経験ができました。午後は化学の授業を受け、先生が特別にメントスを爆発させる実験をしてくれ面白かったです。

そして昼に学食を食べたのですが、アメリカのぶどうの美味しさに感激し、夜はお父さんの John の誕生日祝いで寿司屋に行き、マグロの美味しさに驚きました。初めて知る事ばかりで楽しかったです。

《3 日目》

皆とセーラム市を散策。この街は昔、魔女狩りが起こり、たくさんの人が処刑されたという話を聞き悲しくなりました。翌日がハロウィーンだということもあり、仮装した人で賑わっていました。

その後はホストファミリーと電車に乗り、ボストンのバスケットチーム

「CELTICS」の試合を観戦しました。Sarah はダンスチームに所属していて試合の前に踊っていたのですが、とても上手で楽しそうでした。試合は負けてしまいましたが、最高の思い出になりました。

《4日目》

ハロウィーン当日！まず歓迎パーティーがあり、いか踊りを踊ったり、たくさんの人と仲良くなれました。

そして夜はアリスの仮装をして Sarah の友達と一緒に“Trick or treat”と言って歩き、お菓子をいっぱいもらいました。飾りも仮装も手が込んでいて、怖いくらいでした。

その後は私の小さい頃の話や好きな歌手について話したり、自分から進んでコミュニケーションをとれるようになりました。Sarah の友達とたくさん笑って、とても楽しい1日でした。



ハロウィーンの仮装



ボストンにて Fry 家と叔母の家族と

《5日目》

ホストファミリーとボストンへ。スターバックスに行き、ニューベリー・ストリートを歩き、オルガン奏者の私の叔父がいる教会に行きました。そこには世界で8番目に大きいオルガンがあり、実際にひかせてもらい、すごい迫力を体感しました。そして、私がアメリカについて興味を持つきっかけになった、はとこのエマと叔母に久々に会えて嬉しかったです。

帰宅後は、日本から持ってきたうどんとイカ飯を天嶺さんと一緒に作りました。喜んで食べてもらえて嬉しかったです。そして私が以前トイストーリーを好きだと言ったことを覚えてくれていて、DVD鑑賞をしました。フライ家に出会え

て本当に良かったと改めて思った1日でした。

《6日目》

ケンブリッジ市、ハーバード大学に行きました。アメリカ最古の大学ということで歴史を感じました。昼食には大きいピザや肉を食べながら、研修メンバーとより仲を深められました。

《7日目》

ホストファミリーと過ごす最後の日。高校への登校も今日が最後かと思うと泣きそうでした。

午前は administration の授業中に、Sarah がパソコンで、アメリカで流行っている歌手を調べてくれたり、私の好きな歌手の動画を見て cool!! と言ってくれました。持ってきたハイチュウをプレゼントしたりして、他の生徒とも仲良くなれました。

そして一旦高校を出て、ノースブリッジに行きました。この橋は独立戦争が起こった所で、ミニットマン像や戦いで亡くなったイギリス人のお墓があり、「この墓を見ると、かつて日本とも戦争をしたことを思い出すけれど、今こうやって交流ができていることを嬉しく思う」というデイビット先生の話に感動しました。その後行ったウォルデンポンドはとてもキレイでした。

そして学校に戻ると、念願のスクールバンドとの演奏をすることができ、言葉は通じなくても音で気持ちは伝わるのだと知ることができました。とても楽しいひと時でした。

学校が終わった後は、サイファイクラブ主催のパーティーに出席しました。Sarah が私に美味しいご飯を勧めてくれたり、逆に私たちが Sarah に日本語を教えたりと、いっぱい話して笑って楽しかったです。

その夜、ホストファミリーからたくさんのプレゼントをもらい泣いてしまいました。そして感謝の気持ちを込め、日本から持ってきたソプラノサクソを演奏しました。お母さんの Jude が一緒に歌ってくれ、嬉しかったです。



Sarah とのツーショット

ずっとこのまま明日が来なければいいのにといい、なかなか寝付けませんでした。

《8日目》

朝になり別れが来てしまいました。私はこっそり書いていた手紙を渡し、ハグをして、感謝を伝えました。もう本当に最後なのだと思います、悲しすぎて涙が止まりませんでした。

そして4時間バスに乗り、世界中心の都市ニューヨークに着きました！今まで見たことのない高層ビルや、たくさんの人で溢れていて驚きの連続でした。

まず国際連合本部ビルやロックフェラーセンターに行きました。展望台からの景色は素晴らしく、エンパイアステートビル全体を眺められました。タイムズスクエアはきらびやかで日本とは別世界に感じました。

ニューヨークは夜でも明るく、サックスを吹いている人がいたり賑やかでしたが、一方で薬物を売ろうとする人がいたり、怖い一面もありました。また、全体的に物価が高い印象でした。ホテルは高校生メンバーで泊まり楽しい思い出ができました。



自由の女神の前で

《9日目》

高校生の2人とセーラム市で買ったお揃いのパーカーを着て、自由の女神像を見に行きました。予想以上に大きく、緑色だということに驚きました。そして次に9.11同時多発テロが起きたワールド・トレードセンターの跡地に行ってきました。貯水池のようなものの周りに亡くなった犠牲者の方の名前が彫ってあったり、そのテロの中、生き残った木や美術作品がモニュメントとして残されていて、どれだけ悲惨なことが起こったのかと悲しくなり、絶対に許されないことだと改めて思いました。

アメリカ最後の夜にはステーキを食べ、今日で海外研修も最後だと思おうと寂しくなり泣いてしまいました。

この研修に参加させていただき、日本では感じることのできない、たくさんの方に触れ世界観が広がりました。アメリカへ行く前は不安でいっぱいでしたが、だんだん自ら色々な事にチャレンジでき、以前より積極的になり強くなれたと思います。この機会を与えてくれた七飯町や両親、Fry家には感謝でいっぱいです。これから恩返しができるよう、この経験を生かし夢に向かって進んでいこうと思います。そしてお金を貯め、英語をもっと上達させて成長した自分で、いつか再びコンコードへ行きたいです。

～コンコード海外研修を終えて～

引率教員 七飯中学校 鈴木 将之

<はじめに>

今回の「七飯町海外交流派遣研修」に引率教員としての立場で参加させていただいて、本当に感謝しています。個人的には約10年ぶりの海外ということもあり、パスポートも更新し、英語教師としてさらに見聞を広めたい気持ちで参加しました。普段は生徒に英語を教えています。現地では、日本の教室では学べない生の英語に触れ、様々なことを吸収することができました。

<事前研修>

コンコードを訪問する前に、全部で5回の事前研修を行いました。最初は生徒も大人も初対面ということもあり、打ち解けるまで少し時間がかかりましたが、国際交流員のクリスさんのていねいな英会話レッスンや団長を務めた杉原さんの場を和ませるような会話で、研修を重ねるごとに、だんだんお互い話すようになり、仲間意識が出てきたように感じました。

<コンコードでの滞在を振り返って>

～アメリカへ向け出発～

予定通りに成田空港を18:10にボストンに向けて出発。ボストンの空港には28日の18:00に着きました。機内食(2食とも日本食)も思っていたよりずっと美味しく、あっという間に完食してしまいました。

ボストンローガン空港に着き、入国審査も無事に済ませ、今回の研修の現地責任者であるトム・カーティンさんが出迎えてくれました。空港からバスに乗り、コンコードへ移動し、今回七飯の生徒が登校するコンコードカーライル高校(CCHS)で、ホストファミリーと簡単な対面式を行いました。私のホストファミリーは、ジョイスさんで、お父さんがビルさん、お母さんがクリスさんでした。ビルさんは、自営業で建築関係の仕事をしていて、クリスさんは、自宅のアトリエで絵画教室を開いている美術講師でした。自宅に着いてから、家の説明などを聞き、お互い改めて簡単な自己紹介をしました。ホームステイ中は2人の気配りが行き届いていて、とても感激しました。

日本から持参したプレゼント(はしとお菓子)を2人に渡すと喜んでくれたのでよかったです。2人から私だけでなく、家族にもプレゼント(ガラス細工やお風呂で遊ぶおもちゃなど)をいただきました。

～コンコード①校内見学～

朝7時にCCHSに集合。生徒が参加する校内の放送局（CCTV）の留学生フォーラムに同行し、その後WIQHというラジオ局に参加しました。CCTVでの韓国人留学生と七飯の中高生のやりとりを見て、緊張している感じがとても伝わってきましたが、生徒たちは自分の考えや意見をしっかり述べる事ができていたと思います。

生徒と一緒にカフェで早めの昼食をとり、CCHSの校長先生や教育長などを交えた昼食会に参加しました。感謝祭で食べる「ラップ」とクラムチャウダー、パンプキンパイをいただきました。午後からは、ヒンズー教の授業に参加しましたが、内容を理解するのは非常に難しかったです。

～コンコード②セーラム市内観光～

8:30に昨日と同じCCHSの正面玄関に集合。それから、セーラム市内の観光を13:00までしました。セーラムは魔女狩りで有名な町で、ハロウィーン前日ということもあり、仮装している人がたくさん歩いていました。私たちの日本人グループの担当者であるデイビッド先生や現地でコーディネーターをしているじゅん子さんがツアーガイドとして、その町の歴史などについて詳しく説明してくれました。

19:00にトムさん主催のホームパーティーに招待されました。ピザやパイなど、これぞアメリカ！というような料理がずらりとテーブルに並んであり、アメリカンフットボールを見ながらみんなで談笑していました。



料理の数々

～コンコード③ハロウィーン～

午後から、ホストファミリーと一緒にポットラックパーティーに参加しました。一人一品持ち寄り、みんなでランチを楽しみ、最後に全員で「イカ踊り」を踊りました。パーティー後、近くの町「ウェストコンコード」を3人で散策しました。

この日はハロウィーンで、何人か子どもが家に来て、“Trick or treat!”と行ってお菓子をもらう姿は、日本の七夕のような印象を受けました。子どもたちは、ネイティブアメリカンやキャラクターの仮装をしていて、みんなかわいかったです。

～コンコード④ボストン市内観光～

ホストファミリーとボストン市内を観光しました。昼食は地元で人気のあるレストランでとりました。海に面したレストランで、函館の金森倉庫のような雰囲気のある街並みが印象的でした。サマータイムから時計を1時間戻しました。

11/2 (月)、いつものように CCHS に集合し、この日は全員でバスに乗り、午前中にボストン市内を観光しました。

(ハーバード大学やケンブリッジなど)ハーバード大学のキャンパス内にある像は、たくさんの方が右足を触っていて、金色に変色していました。テレビでしか建物などの外観を見たことがなかったので、直に見ることができとても嬉しく思いました。



ジョン・ハーバード像

～コンコード⑤授業公開～

この日のことは特に鮮明に覚えています。私が現地の高校生に授業をする



交流授業の様子

日だったからです。1時間目は、デイビッド先生の授業を見学し、2時間目に高校3年生のクラスで授業をしました。その内容は、①七飯中学校の紹介、②学校行事のスライド上映、③メッセージカードの交換でした。

20人位のクラスでしたが、全員がスライドを食い入るように見て、何人かの質問に

も受け答えをしました。私がコンコードを訪問する前に、自分のクラス(2年生)で「あなたは、時間がある時(ひまな時)に普段何をしますか?」という内容の英文をカードに書かせ、その返事を現地の生徒に書いてもらいましたが、これが想像以上に真剣に取り組んでくれ、たくさんコメントをして



くれたことに感激しました。日本に帰って来てから、クラスの生徒に、その書いてもらったカードを渡すと、みんな目を輝かせて読んでいる姿が印象的でした。

帰宅後、18:00から「パパラッチ」というイタリアンレストランで開かれた送別会にホストファミリーと一緒に出席しました。1テーブルに5人座り、私も含め3人が日本人、2人が現地の人だったので、色々な話をする時に、通訳として自分の役割を果たすことに努めました。他のホストファミリーの農家の話や普段の生活、家族のことなどについて話を聞くことができ、非常に楽しかったです。

<ニューヨークでの滞在を振り返って>

～ニューヨーク①～

6:30にホストファミリーの車でバスの出発場所に着き、ホストファミリーとの別れを惜しみつつ、ニューヨークに向けて出発しました。コンコードから約4時間かかりましたが、無事にニューヨークに到着。セントラルパークや国連などを見て回りました。目に飛び込んでくる景色のすべてがコンコードやボストンとまったく違ったので、ニューヨークの町に圧倒されたことを今でも覚えています。昼食後、ロックフェラーセンターや自由の女神などの有名観光スポットの観光をしました。間近で見た自由の女神は迫力があり、何枚も写真を撮りました。18:30の夕食後、タイムズスクエアにある何件かのお店(服屋・雑貨屋など)に寄り、買い物をしました。お店では、店員との通訳をし、楽しく買い物できたと思います。



迫力ある自由の女神

～ニューヨーク②、帰国～

ニューヨークのホテルを出発し、JFK 空港へ向かいました。チェックインはボストンの空港よりセキュリティーチェックが厳しかったです。定刻通りに JFK 空港を出発し、成田空港に無事に到着。成田空港から函館空港に到着したのは19:00過ぎで、役場の方や生徒の保護者が出迎えてくれました。大きな事故やトラブルなどもなく、今回の海外研修を無事に終えることができました。

<おわりに>

この研修を通して得た経験を生徒に一つでも多く還元できるように、今まで以上にさらに英語力を磨き、授業に活かしたいと強く感じました。

今回の海外派遣研修の実施にあたり、コンコードの皆さんに感謝とお礼を申し上げ、この交流事業にご協力いただいた関係者の皆様にお礼を申し上げます。

来年の4月に七飯を訪問すると聞いたので、コンコードの皆さんと再会できることを楽しみにしています！



ホストファミリーのビルさん（左）とクリスさん（右）

～七飯町海外交流派遣研修を終えて～

町民代表 農業後継者 成田 拓郎

はじめに、このような貴重な機会を頂き、感謝申し上げます。今回初めての海外でしたが、5回の研修でコンコードの歴史や英会話などを学んだことで、ほとんど不安もなく出発する事が出来ました。

研修から1ヵ月が過ぎ、一番思い出すのはホストファミリーと過ごした時間です。お世話になったジャック・ナンシー夫妻は、長年七飯の訪問団のホストファミリーをしており、以前にホームステイをした派遣者からとても良い人達だと聞いていました。コンコードカーライル高校（CCHS）での対面歓迎式で、2人に初めて会った際、笑顔で出迎えてくれたことで緊張がとけたのを覚えています。

一番不安だったのは、片言でしか話せない英語での会話でしたが、理解できるまで何度も繰り返し繰り返し話してくれて、時には辞書や携帯を使いながら問題なく過ごすことが出来ました。食事に関してアメリカのイメージは、肉がメインで脂っぽい物を多く食べているイメージでしたが、ホームステイ中



庭でのゴルフ練習

に出た料理で言うとその様なことはなく、朝はパンにコーヒー、スクランブルエッグに野菜といった感じでした。夕食はパーティーが多く、家庭料理を食べる機会はありませんでしたが、どの料理も非常に美味しかったです。唯一苦手だったのが、オートミールという日本で例えたとお粥

に近いものにバターやハチミツを加えたもので、アメリカでは朝食によく食べるそうです。通訳のジュンコさんに話すと、「塩で食べるのが一番」と聞いて間違いのないかと納得しました。

日曜日は、1日ホストファミリーと過ごす日で、2人のお気に入りだというボストン美術館に連れて行ってくれました。アメリカ内でBEST3に入る美術館で、日本の美



ボストン美術館 天心園

術品も多く展示していると聞き、とても楽しみにしていました。想像を超える大きさに加え、老若男女様々な人種のお客さんでいっぱい、ランチに館内のレストランに行くと満席で入れない程混雑していました。日本の物は、刀や着物、仏像や巻物など幅広く展示してあり、中でも一番印象に残っているのが、外の敷地内に作られた天心園という庭園で、日本にいると錯覚する程忠実に作られた作品でした。なぜ日本の美術品が多いのか調べると、ボストンは、貿易港としてアジア諸国との関係が深かったこともあり、アジア地域の収集に力を入れていたようで、特に日本美術のコレクションは、日本国外にあるものとしては質・量ともに最も優れたものとして知られているそうです。アメリカで見る日本の作品は普段見る時よりも素敵に感じました。

コンコード滞在中は、アメリカ独立戦争の舞台である「オールド・ノースブリッジ」、そこで新聞記者という男性から少しインタビューを受け、今なお注目度の高さがうかがえました。日本でも有名な若草物語を書いた、ルイーザ・メイ・オルコットが住んでいた「オーチャードハウス」、ここでは、ルイーザ本人に扮した



ハロウィンパーティー 可愛い子供達

館長のジャンさんが芝居を見せてくれました。他にも、コンコード近郊の魔女狩りで有名なセイラム市に行き、ハロウィン間近とあって仮装した人やお店でとても賑わっていました。



別れの日 ジャック・ナンシーと

そして、視察のメインでもある農場見学は4つの農場に行くことができました。どの農場もオーガニックにこだわっており、たくさんの貴重な話、日本で馴染みのない野菜や果物を見れて面白かったです。一番見たかった果樹園は、時間が押してしまい、通訳なしで先に一人でいくハプニングもありましたが、滞在7日目

で英語に少し慣れたのか、何とか理解することが出来ました。収穫したリンゴを見ると、病害虫による被害や色味の悪いものが多く、日本では売れないなというのが率直な印象でした。しかし、オーガニック商品を求めるお客さんがとても多く売れているそうです。「環境の保全」「食品の安全性」「自然との共生」などオーガニックには、多様な目標があり、あまり知識のない私には、新鮮でとても興味深いお話でした。

コンコード出発の朝、大勢の方が見送りに来て下さり、別れを惜しみつつニューヨークへと出発しました。車中思い出に浸かっていると、ナンシーからとても温かいメールが届き、改めて2人と過ごした時間が自分にとってかけがえのない大切な時間だったんだと実感しました。

ニューヨークでは、自由の女神、セントラルパーク、ロックフェラーセンター、グラウンドゼロなど、多くの観光地を訪れることができ、アメリカ同時多発テロが起きた場所を直で見ることができたのは一生の思い出です。

泊まったホテルは、タイムズスクエアから近く、ゆっくり観光することができました。昼夜を問わず多くの人で溢れかえっており、一つ一つのショップも規模が大きく驚きました。夜中でもパトカーのサイレンや車のクラクションが鳴り響き、前日までのコンコードとのギャップに戸惑ったのも良い思い出です。



自由の女神



タイムズスクエア

ニューヨークは、思い描いていたよりも魅力的な素晴らしい街でした。

最後になりますが、ホストファミリーのジャックとナンシーをはじめ、コンコードの皆様のおかげで暖かいおもてなしに感謝の気持ちでいっぱいです。また、このような貴重な経験の場を与えてくださった七飯町の関係者の皆様、ありがとうございました。

～コンコードを振り返って～

町民代表 農業後継者 松本 健吾

待ちに待った海外交流研修、話が来たときは即答で二つ返事、迷いはありませんでした。不安は無くわくわくした気持ちでいっぱいでした。海外に行く前に事前研修が行われ、渡航する前の注意点、七飯の歴史、英会話はクリス講師にて勉強しました。

海外は3度目になりますが、私自身、あらためてコンコードの町はとても暮らしやすい街だと体で感じ、そう思いました。

当日朝、函館空港に現地集合し羽田へ、そしてリムジンバスで乗り継ぎ成田へ、ボストンへ出発、出発するまでの間、空港内でおみやげなど買ったりしていました。

事前にホスト先の Johnson さんとメールのやりとりをしていました。すると丁寧に返事が来ました。

“So nice to hear from you. We (my wife Daniela, our daughter Kira and our son Neven) are all looking forward to your stay here. I think we will have a lot of fun together.”

ボストン国際空港まで12時間かかりましたが揺れがあまりないのか飛行している感じがなかったです。ホストファミリーの家に着いてからは片言ながらも積極的に会話しておみやげを渡しました。七飯のことを携帯の写真を見せながら話しました。



ジョンソンさん一家

2日目の朝、コーヒーをいただきながら外を眺めていたら、リスがあちこちにいることに驚きました。朝からとても癒されました。この日 CLARK FARM を見学しました。ここはコンコード市民のサポートを受けながら経営している直売所でした。サポート会員になると、カゴ1つ買い物ができるとても良いシステムだと思いました。もちろん一般の会員じゃない客も買い物ができます。ここのお店の商品はすべてオーガニックとのことでした。それぞれの商品規格がない商品として売られていました。土地や農地、自

然を守っている意識が高くとても興味をもちました。それからノースブリッジ、霊園、CCHSに行きました。市民一体となって協力して町を創り上げるという話を聞いてから、改めて町を眺めてとても大変なことだなと良い刺激を受けました。時間もあっという間に昼になり CCHS で学校の先生方と昼食をとり楽しい時間を過ごしました。昼食後 CCHS 校内を見学しました。高校とは思えないほど広い解放的な土地でした。午後からはオーチャードハウスに行き、若草物語について話を聞きました。物語について関心を持ったので色々調べたいと思いました。この日、ほんの少しではありますがコンコードを知ることができ、貴重な経験となりました。

3日目、今日は Neven と一緒に車で登校しました。それから CCHS に集まり、セイラムの町へ行きました。セイラムは謎の事件が起きた町として知られており、その昔セイラム魔女裁判という謎めいた事件が起きました。村人が魔女だとされ、無実とされる人が次々と告発され裁判にかけられました。そんなおそろしい魔女裁判、一説には麦角中毒、児童虐待、いろんな説が唱えられています。そんな話を聞いて恐ろしい街だと認識していましたが、とてもそうとは思えないほど活気のあるイベントが行われていました。その後セイラムを散策していたら足がつってしまい歩くのが困難になりました。あまり歩けず、見学出来ませんでした。時間が経つにつれ人が多くなり、じわじわと混み合ってきました。それからしばらくして時間となったので、学校に戻りました。

午後3時前だったので近くの町を見たいと、鈴木先生にホームステイの Tom さんに伝えていただき行けることになりました。この日は見てまわるだけでしたが、次の日買い物に行こうと誘われました。夕方から Curtin 家でピザパーティーをし、アメリカンフットボールを観戦して盛り上がりました。そしてそこにいる人たちとたくさん農業について話しました。次の話はここに来てパソコンで説明するよと言ってくれました。次が待ち遠しいです。



ハロウィンの仮装（私です！）

4日目は Tom と一緒に買い物をしました。もちろんドルでの買い物です。不慣

れなコインと紙幣を使いながらおつりを少なく済むように努力しました。

夕方には初めてのハロウィンパーティに参加しました。もちろん私自身
が変身して脅かしていました。小さな子供から大人まで参加できるのでみ
んなが楽しめるパーティーは、七飯町の七夕に似ていました。また仮装が
出来る機会があれば参加したいと思います。

5日目、北海道とマサチューセッツ州が姉妹州提携 25 周年ということ
で CCHS にて演奏コンサートが開かれました。合同でセッションしていた
ので、音楽に壁はないんだなと肌で感じました。

日本の知っている曲も演奏されていて、ホッとする時間でもありました。
奥深く、演奏に圧倒されてしまって、感激して思わずうるっとしてしま
いました。

6日目、一日一日がとても早く感じてしまって、しばらくいたいなあ
と思いました。毎日新たな発見がありとても充実していると感じました。

7日目、明日が最後のホームステイ、最後の夜にボストン市内にあるパ
パラッチというレストランでパーティーをしました。1 週間を振り返って
みると色々な生活が見えてきました。靴で上がる家とそうでない家がある
こと、家族思いなこと、建物を大事にしていること、YES,NO がはっきり
していること、そして意外に日本車が多くエコに関心が高いこと、仕事面
でも ON,OFF があり、ゆとりがあるように思えました。

8日目、早朝から家族に見送られ N.Y へ
それぞれの家族に見送られながら出発し、3 時間以上バスに揺られ、よう
やく到着した NY は全くの別世界でした。同じ国でも州が変われば街も変
わります。車、人が多くて酔ってしまいました。道路は渋滞してクラクシ
ョンが飛び交っていました。想像以上に迫力があり、空気に呑まれてしま
いそうでした。高層ビルに囲まれながらやっと着いたウィルトンホテルは、
少しレトロ感を漂わせるホテルでした。ガイドさんから注意として、「自
分の身は自分で守って下さい。スリに遭わないよう貴重品の管理には注意
してください。」と日本じゃあまり意識したことが無かったことを言われ、
とても落ち着きませんでした。

9日～10日目

N.Y は常に明るいので太陽が昇るまでわかりません。朝の街並みと景色は
別物でとても綺麗でした。人の流れがあるので時間に追われている感じが

しました。逆に夜は遊園地のようにキラキラしていて、主に広告の看板が光っていました。

タイムズスクエア、自由の女神、9.11のグランドゼロ、セントラルパーク、中でもグランドゼロに行けたことに胸いっぱいです。当時小学生だった頃テレビでしか触れることが出来なだろうと思っていました。そんな事故現場にいたのは不思議な感覚でした。そしてN.Yを見下ろすトップ・オブ・ザ・ロックは最高の観光スポットでした。N.Yはいつも新しい風が流れていると感じました。そんな素敵な街でした。

最後に

長いようで短い海外交流研修でした。普通の旅行じゃまず味わえないホストファミリーとの交流、コンコードの農場の視察、機会があればコンコードの最盛期に農業視察に行くことが出来ればなと思いました。

まだまだ経験が少ないのでこれからの農業をどうしていくか、地域にそったやり方をし、その時代にあわせてやっていく、色んなところを視察しながら特に自分らしい農業を創っていくことが出来ればなと思いました。

今回お世話になったコンコードの皆さん、心から感謝しています。ありがとうございました。次会うことがあればまた会いましょう。

～七飯町海外交流研修～

町民代表 農業後継者 澤田 良太

1 日目

朝、7時半に家を出て函館空港に行き羽田空港まで行きました。羽田空港からはリムジンバスに乗り成田空港へ向かいました。飛行機に乗り、12時間のフライトでした。28日の夜アメリカに着き約8日間お世話になるホストファミリーの人達に会いました。

2 日目

朝早く目が覚めてしまい、ホストファミリーが起きるのを待ちました。ホストファミリーが朝7時過ぎに起きて朝ご飯を作ってもらいました。食べ終わった後迎えが来て観光に行きました。まず七飯町に農業を広めた人の農場を見に行きました。その農場が行っている無農薬野菜の直売所を見学してきました。直売所を見学した後、あの有名な「若草物語」が書かれたという場所に行き、見学することが出来ました。若草物語の中で100%中80%が本当に使用されていた科学などがあり、本当に感動しました。そしてコンコードの学校へ行き、お昼ご飯を頂きました。コンコードの学校を見学する事ができたので、色々見学させて頂き、ホームステイ先へ戻りました。



農場や直売所の見学に行きました

3 日目

この日は、大人の人、学生の人達とコンコードから少し離れた町に行ってきました。始めに何か所か回って観光をしました。ハロウィンの前日というのもあり、町には、魔女の仮装をした人やフランケンシュタインの仮装をした人、その他、色々な仮装をした人達がいて、物凄く町は賑やかで驚きました。ホームステイの人の話を聞くと、夜になると日中に比べて、たくさんの方が仮装をして集まるそうです。その後、ホームステイの人と

食べ歩きをして色々な場所に連れていってもらい観光する事が出来ました。あっという間に時間が過ぎ、コンコードへ戻りました。少しだけ休憩をしてからホームステイの人とスーパーへ買い物に行きました。日本とは違い、色々な物があり驚きました。夕方に違う家の人達のパーティーがあるらしく、招待されたので行ってきました。とても楽しく賑やかで、3日目を終えました。

4日目

この日は、朝からホームステイの家族と一緒に、散歩に行きました。散歩した場所は、「ウォルデンポンド」という湖に行きました。七飯町で例えると大沼に似ていました。湖を一周してみたら、2時間くらいかかりました。朝の9時に家を出て12時過ぎくらいに家に戻りました。お昼は、市民会館みたいな所で七飯町とコンコードの姉妹都市交流パーティーをやりました。とても盛大でした。パーティーが終わり、場所を移動して今度は、違う人の家でハロウィンパーティーをやりました。日本の家で例えると七夕みたいな感じに似ていました。子供達の仮装がとても可愛らしかったのですが、思っていた以上にリアルで驚きました。日本では、経験出来ないような事を体験出来た1日でした。

5日目

この日は、ホストファミリーと一緒にボストンにある美術館に行きました。日本では、まず見られない素晴らしい場所でした。美術館に展示してある場所がそれぞれの国の展示場になっていて、日本の展示場は「鎧」や



ボストンで食べたロブスター

「壺」などが展示しており、周りも上手く工夫されていて、和風な感じで展示物を見立てていてとても印象に残りました。美術館から帰ってきてお昼ご飯を食べてから学校へ向かいました。学校では、北海道とマサチューセッツ州の姉妹州提携25周年を祝う音楽の発表会があり、発表会を見てきました。だいたい2時間くらい発表会がありました。発表会が終わった

後、ホストファミリーの人達と晩ご飯を食べに行きました。晩ご飯には、ロブスターがあって食べさせてもらいました。味は、凄くカニに似ていました。

6日目

この日は、学生の人達と大人達で有名なハーバード大学を見学してきました。見学を終えて、自由時間があつたので買い物やお昼ご飯など、それぞれ自由に時間を過ごしました。その日、ホストファミリーの人達と買い物などで大いに楽しみました。その日の晩ご飯は珍しくステーキでした。とてもおいしくいただきました。

7日目

この日は、コンコードの農場を4件見学に行ってきました。日本の農業とは違ったやり方で、とても良い経験が出来たと思います。コンコードの農業では、ほとんどが無農薬で作っていて凄いなと思いました。無農薬でここまで育つのは、初めて見ました。すべて見学が終わりホストファミリーの家へ帰りすぐパーティーに行ってきました。

8日目

この日は、ホストファミリーとお別れの日で、早朝から自分の荷物を最終確認してホストファミリーと朝食を食べ、ニューヨークに行くバスまで送ってもらいました。そこから、お別れをしてニューヨークに出発しました。ニューヨークでは、2日間観光をして日本に帰国しました。



ホームステイでお世話になった
ジャックとナンシー夫妻

この、10日間は、自分にとってすごく、良い経験になりました。

～米国マサチューセッツ州コンコード町を訪問して～

総務部政策推進課長 杉原 太

平成7年から始まった中高生海外交流研修も今年で21回を迎え、10月28日から11月7日までの11日間の行程で、中学生5名、高校生3名、引率教諭1名、若手農業後継者3名、役場から国際交流員1名と私の総勢14名でコンコード町の皆さんとの交流を通じ、アメリカの生活や文化を体験するとともに、西洋式農業の指導者クラーク博士やホイラー博士のふるさとマサチューセッツ州の農業を視察研修させていただきました。

これまで20年間の中高生海外交流研修の歩みの中で、この事業を経験されて社会人として巣立った生徒の中には、この貴重な経験を糧として世界でご活躍されている方もおります。

人生において、生涯で多くの経験をする事、世界観を実感できるということは、何事にも変えられない価値があると思いますし、そのチャンスを生かすための意欲も必要だと思います。そういう意味では、この度の研修に積極的に参加された中高生や若手農業後継者の皆さんの志に敬意を表するとともに、今後の七飯町の明るい未来が期待されます。

出発に先立ち私たち訪問団は、8月から出発直前の10月まで5回に渡る事前研修で七飯町の歴史や西洋式農業、大沼国定公園を中心とする恵まれた自然環境、コンコード町と七飯町のこれまでの交流の歴史などを学びました。

特に日本の西洋式農業発祥の地が七飯町であるということ。既にご存知だと思いますが、マサチューセッツ州出身のクラーク博士、そしてコンコード町出身のホイラー博士（札幌時計台の設計者）の指導により、日本の農業試験場「七重官園」で西洋式農法が実験研究されていたということです。

明治初期から七飯町とマサチューセッツ州、そしてコンコード町出身の方々と既に交流がされていたという縁があったということです。

コンコード町は、アメリカの独立戦争勃発の地で、アメリカ発祥の地として有名ですが、そんな歴史的な町と七飯町が140年も前から結ばれていたことを知ったことにより、より一層コンコード町への興味が湧いてきました。出発の日、10月28日午前8時30分函館空港に訪問団が集合しました。函館空港を出発して成田空港で飛行機



新しくなったCCHS

を乗り継ぎ、ボストンローガン空港に到着したのは午後7時頃です。ボストンローガン空港では、トムさん、リーさん、ジュンコさんらが黄色いスクールバスで「ようこそコンコードへ」と書かれた横断幕を掲げて私たちを温かく迎えてくれました。コンコード町との交流がこんなにも自然にできるなんて、七飯町の諸先輩たちがこれまで築いてきた交流事業の成果を肌で実感いたしました。

空港からコンコードまでは迎いのスクールバスで夜のボストン市街を抜けて高速道路で約40分のドライブです。

コンコード・カーライル高校（CCHS）には、午後8時頃に到着しました。

ここでは、私たちを受け入れてくれたホストファミリーの皆さんとスタッフが新築されたCCHSのメインロビーを風船等で飾り付け、横断幕を持って歓迎してくださいました。



CCHSでの対面歓迎式

ちょっとした手料理なども用意され、アットホームな感じの対面歓迎式となりました。ここで七飯町の訪問団はそれぞれのホストファミリーの元へと別れて、アメリカでのホームステイの始まりです。

アメリカはサマータイムで日本よりマイナス13時間の時差ですから、この時点で、日本時間にすると29日午前7時となり、28日の午前8時から移動に丸1日かかったこととなります。それでも、国境を越えて親しい友人と交流できる楽しみ

は長旅の疲れなど感じないほど、気持ちが昂るばかりです。

さあ、今日からホームステイです。私のホストファミリーは、大学講師のジョンさんと建築家のホリーさんご夫妻、クラッツリーファミリーです。

6月に七飯町でお会いしていましたので、英語は片言、単語のつなぎ合せですが、笑顔と身振りでなんとなく通じ合うことができました。



クラッツリーさんご夫妻

コンコード町での研修では、中高

校生8名と七飯中学校の鈴木先生がCCHSでの交流授業を体験しました。

私と若手農業後継者3名は、事前に希望していたコンコード町の農業施設や直売

所など、現在のコンコード町の農業を中心として研修させていただきました。

はじめにオーガニック農法を取り入れているクラークファームを訪問させていただきましたが、そこはオーガニック農法に賛同する消費者が出資して経営している農場となっており、直売所が併設され、収穫期には出資会員が直売所で決められた種類の野菜を決められた数だけマイバックに詰めて持ち帰るというシステムになっていました。



クラークファームの直売所

今、アメリカでも特にマサチューセッツ州の農業は、農地を持っている人と農業を始めたい人が違って、農業を始めたくとも土地を確保するのが難しく、その対策として、コンコード町が農地を所有し、公共的な農地を就農希望の方に借地して農業を継続するという形をとっていました。農地を持っているが後継者がいない場合など、公共的に農地の管理をすることで、新規就農の機会を支援するというものです。

コンコード町の皆さんは農業に対して、環境問題と安全安心な食料確保を考えており、自然環境の保全と、食の安全を追求する姿勢は私たち北海道七飯町民と同じ考え方であると思いました。



ヴェリルファームの直売所

しかしながら、私たちより進んでいる点は、農地を個人に任せるだけでなく、公共が自らの施策として後継者に悩む農家にも公共的借地農地という手法を編み出しているということです。アメリカの農業はカルフォルニアに代表されるような途方もないくらいの大規模農業というイメージですが、州によっては、日本に近い所もあると気づかされました。マサチューセッツ州は小さな州で、

ボストンという大きな都市のベッドタウン、就業状況ではサービス業、公務員、卸売業の3次産業が約90パーセントを占め、その多くがボストンに勤務しているということです。自然環境を保全し安全安心な食料を生産するオーガニック農法による農業に対するステータスは高いものとなっております。

私たちは、クラークファームの他にも「A Guido to Concord Farms」というリーフ

レットを資料に4か所のコンコード町内の農場を視察しました。

その中でもヴェリルファームでは、農作物と酪農をしながら直売所を経営し、しかもその直売所には、お惣菜やパン、ケーキなどの工場も併設され、日本でいう6次化産業が既にビジネスとして根付いておりました。社長曰く、今の家庭はほとんど共稼ぎで夫婦が働いているので、晩御飯のおかず、お惣菜が一番の売れ筋だそうです。

夕方の時間帯に訪問させていただきましたが、郊外にある農場の直売所ですが次々と駐車場に車が入って来ていました。



ヴェリルファームのお惣菜工場

視察研修の感想として、これからの七飯町の農業も1次産品の出荷から2次加工、営業販売の3次産業、そして一貫した6次化産業へと付加価値を付けた強い農業へと進化することが期待されます。そして、そのことが地域にマッチする企業誘致、起業促進、雇用創出につながるアイデアであるとコンコード町の皆さんに教えていただき感謝です。

そして、コンコード町の町並みについてです。自然の木々が目立ち、電信柱も住宅街では木柱となっていて街路樹と調和して目立ちませんし、繁華街、町の中心部では、電線の地中化によって電柱はありません。そして、とにかく信号機が少なく、町の中心地に近づいても信号機が見当たりません。

これで交通事故は起きないのかなと思っていると、横断歩道の手前で止まって、歩行者を渡してから再び走り出します。

また、十字路交差点はありません。交差点は、日本でも今年9月から制度化されましたが、ラウンドアバウトという円形のロータリー方式となっています。他の車の様子を見て止まり譲り合いながら進入するなど、運転マナーの良さに感心しました。

信号機が無いことで、歴史的な町並みが自然に調和し「コンコード＝調和」という意味が深く心に響きました。

次にコンコード町の著名な場所です。若草物語の舞台ルイザ・メイ・オールコットの家が保存されていました。また、オールドノースブリッジ、ウォールデンpondなど、どれも自然と調和した歴史的なたたずまいを醸し出しています。

生活において決して歴史や自然に逆らわない、自然に溶け込む姿勢が成熟したコンコード町の「まちづくり」に感心するばかりです。

31日土曜日には、ウエストコンコードの高齢者福祉施設でポットラックパーティを開催していただきましたが、ホストファミリーの皆さんの手作りによる料理と

ともに恒例となっているイカ踊りを参加者全員で踊りました。言葉だけじゃなく身体ごと使った日本の輪踊りはみんなを夢中にさせて大変盛り上がりました。

コンコード町でのホームステイもあっという間に過ぎて行きましたが、ホストファミリーのクラッツリーさんには、高校生になる孫娘さんの女子サッカーの試合観戦やコーラスのコンサートなど、普段体験できないアメリカでの日常生活を家族同様に連れて行っていただき、おじいちゃんおばあちゃんの孫に対する愛情の深さは日本の周りにいるおじいちゃん、おばあちゃんとちっとも変わらない、世界共通なんだということも知りました。食事の時なんかも家族そろって食卓に着き、お話をしながら食事をするなど、心豊かに落ち着ける環境をホームステイで体験させていただき、日本では、忙しくて食事が家族で別々になってきている家庭も増えていることを考えると、改めてコミュニケーションと合わせた食事の大切さを認識しました。

そして、11月1日、この日は特別な日でした。マサチューセッツ州と北海道の姉妹州提携25年ということで、午後3時よりCCHSのコンサートホールでHokkaido Pioneersと冠した記念コンサートが開催され、トムさんが作詞した姉妹州25年を記念した曲「Hokkaido Pioneers」(北海道の開拓者たち)がCCHSコンサートバンドによって披露されました。演奏後には、会場中がスタンディングオベーションで拍手の渦となりました。



CCHSコンサートバンド

コンコード町で過ごした6日間は、見るもの聞くものが新鮮で刺激となり、心身ともに発想の転換と心が大きくなったと思います。

そんなアメリカの中でも歴史的なコンコード町と七飯町との姉妹都市交流、そしてマサチューセッツ州と北海道の姉妹州が末永く続いていることに、感慨深く思うとともに両町、両州(道)の明治時代からの連携協力関係と将来へ向けた交流、連携施策の重要性を認識しました。

11月4日、コンコード町の多くの皆さんに見送られ私たちはニューヨークへと向かいました。一般的にアメリカの東部まで行くという機会は限られることです。世界の金融や経済がグローバルになっている今、世界の中心であるニューヨークを見ることは、特に中高校生にとって貴重な経験であると考え、今回からニューヨーク視察研修も復活しました。

ニューヨークではウォール街、マンハッタン、タイムズスクエア、セントラルパーク、自由の女神、グランド・ゼロ、国連本部など視察しました。



ニューヨークタイムズスクエア

終わりに、コンコード町でのホームステイやニューヨークの視察研修は、世界の広さを感じるものとなりました。ホームステイという貴重な体験をさせていただいたトム・カーティンさんをリーダーとするコンコード町の皆さんの心遣いとその温かさは一生忘れることはありません。そして、コンコード町の皆様に感謝すると共に、この度の訪問にあたり様々な形でご協力

くださいました各中学校並びに七飯高等学校、地域、参加者の保護者の皆様に厚くお礼申し上げます。

～訪問団の一員として～

国際交流員 クリス・ハウエル

今年、七飯町の訪問団の一員として私の故郷のコンコードに一週間ほど帰ることができました。

準備

コンコードに行く前に、訪問団の皆さんと一緒に研修会を5回しました。初めは、僕が去年から住んでいる七飯の歴史や文化を学び、とても勉強になりました。その後、僕は皆さんにコンコード、アメリカ、英語について出来るだけ教えようと思いました。文化的に、普段は朝食に何を食るとか（家族による）、家に入ると靴を脱ぐべきか（家族による）、アメリカのお金はどんな感じなのか（札が多い）などについて話して、練習しました。英語は、どうやって七飯について述べたらいいのか、ホームステイ中どうやって生活についてのコミュニケーションを取るか、どうやったら英語をきれいに発音できるかなど、大事なことが中心で、皆さんがよく頑張っていて良い勉強になっていたと思います。もちろん、4回だけで英語を完全に覚えるわけではありませんが、皆さんはこの研修でかなり英語を覚えていたので、研修会は心配なく終わることが出来ました。

文化や言葉を覚えるのは大切ですが、もっと大切なのは色々な学校、生活、国からきた大人と子供と一緒に活動に参加し、仲良くなってきたことだと思います。海外交流研修を成功させるのは、赤の他人どうしなら無理だと思います。

出発

函館を出発するために、朝早く空港に行きました。空港で、訪問団の生徒の両親の見送りを見て、私を待っている両親の歓迎を考えて、アメリカに帰る楽しみが増えてきました。無事に成田空港に着いて、午後アメリカ行きの飛行機に乗って日本を出ました。アメリカまでの飛行機は長くて大変といつも言われていますが、私にとっては成田空港までの方が厳しいです。函館空港まで行って、飛行機に乗って、また羽田空港から成田空港までバスに乗って、国際飛行機に乗る前に3、4時間待つのは、1日かかるし、道のりが複雑なので、迷子になるか、何か問題が起こる可能性が高いです。でも、今年は新幹線がやってきて、七飯駅から成田空港駅まで列車で行けるようになるので、車を使わなくて東京まで行けることをとても楽しみにしています。二つの国の距離がどんどん縮まっていくと思います。

同じように、JALのボストンまでの直行便は、新しい787ドリームライナーに変わったので、前に比べて着くのが早いだけではなく、とても気楽に乗れるので、着いたら旅の疲れも早く取れるようになりました。

到着

やっとボストンに着いたときは、夜でした。研修会で練習した通り、税関を通して、皆さんは無事に入国できました。飛行機が早くなったといっても、半日の旅に慣れてない皆さんはやっぱり疲れが溜まっていたようでしたが、最後まで頑張りました。空港から出たとき、ボストンの空気を吸って、なんとなく落ち着きました。一年間弱アメリカに帰っていない私は、とても懐かしく感じました。



CCHS で対面式

トム・カーティンさん、カーグラ・ジュンコさんなどの七飯町に関係があるコンコードの方が迎えに来てくれて、コンコードの黄色のスクールバスに乗りました。訪問団の皆さんがボストンのビル、車、高速道路といった景色を見ながら、1時間CCHSまで乗りました。私の昔の高校に行くのはとても嬉しいと言いたいところですが、実はそうではありません。なぜなら、私が通っていた時の校舎は、日本にいた間に解体されて、駐車場になってしまったからです。今回訪れた時は、前の校舎の裏の丘に、新しい立派な校舎が建てられていました。そこで、滞在中子供たちをお世話するデイビッド・ナレンバーグ先生、今年の4月に七飯に来るコンコードサイファイクラブのメンバー、ホストファミリーたち、そして私の両親が待ちました。久しぶりに二人の嬉しい顔を見て、感動しましたが、再会を楽しむ時間はあまりありませんでした。なぜなら、その瞬間からコンコード滞在が終わるまで、私は通訳で皆さんが言葉の壁を乗り越えるために頑張っていたからです。

サイファイクラブは、飛行機を降りたばかりでお腹が減っていた皆さんにアメリカの料理やお菓子を用意して、それを食べながら皆さんはホストファミリーと交流しました。10時ぐらいに、皆さんは帰って、明日からも元気を出せるようにぐっすり寝ました。



テレビスタジオ

滞在

コンコード訪問団は2つに別れて行動しました。大人の方たちは、ジュンコさんやカーティンさんと一緒に、コンコードの農業を見学しました。中高生たちは、デイビッド先生、鈴木先生、それと私と一緒にCCHSに行ってアメリカの高校生活を見学しました。CCHSでの活動は、コンコードのラジオ局で番組に出て、テレビスタジオでトークショーに

出演し、カフェテリアでご飯を食べて、CCHSを満喫しました。

滞在中は、ハロウィンという祝日がありました。そのハロウィンに大人も子供も、アメリカのセーラム市という、ハロウィンの名所に行きました。デイビッド先生は、私とジュンコさんの手伝いを借りながら、皆さんを案内しました。セーラム市は、とても長い歴史があって、現代のハロウィン衣装を見ながら、怖い魔女裁判の歴史を教えてくださいました。同じように、アメリカの独立戦争の開戦地であるミニットマン国立公園や、ヘンリー・デイビッド・ソローという作家が書いた名作「ウォールデン」と同名の湖も別の日に見に行きました。



ミニットマン国立公園で (上)
ウォールデンpond (左下)



観光をしていない時、皆さんはホストファミリーと交流しました。私の妹は、シカゴに引っ越しましたが、私に会うために帰ってきてくれて、家族全員で、ご飯を食べたり楽しんだりしました。お父さんは、コンコードの職員としてコンコードのインターネットサービスを管理しており、私はその技術を見に行くことができました。

コンコードに滞在中は特に問題なく過ごせましたが、高校生の一人真由ちゃんの場合が悪くなってきて、最後の一晚私の家でホームステイしました。実は、私のお母さんは、中高生をホームステイさせたかったので、とても嬉しそうにしていました。真由ちゃんは元気になり、翌日からニューヨークを楽しむことが出来たようです。

送別会で話すトムさん



送別

最後の夜、中高生たちはサイファイクラブが主催の送別会に参加し、大人たちは別の送別会でイタリア料理を食べました。長く語ったスピーチで、コンコードと七飯の親しみを強く感じました。次の日の朝早く、最後にCCHSに集まり、涙が出るぐらい感動的なさよならをしました。コンコードの人々と七飯の人々との間には、絆が出来たことをはっきりと感じることが出来ました。

私も、両親とのさよならは悲しいですが、両親が私を自慢に思っていることも感じて嬉しかったです。将来、通訳者になりたい私は、一週間のこの経験を通して、日本語能力、通訳能力、それに私の仕事や住んでいる町の人々などを両親に見せる

ことが出来て、良かったです。コンコードから遠く離れている日本にいる私は、その一週間だけでも大切な思い出として残りました。

観光

コンコードを出発し、バスに乗って、世界一の町ニューヨーク市に行きました。滞在期間は一日半しかありませんでしたが、ツアーガイドの方のおかげで、ニューヨークの名所を見ることができ、コンコードと全く違うアメリカの都会を感じました。コンコードは、森に囲まれており、のどかな雰囲気のある町ですが、ニューヨークはコンクリートだらけの都会です。コンコードの人は白人が多いですが、ニューヨークの人は数えきれない民族がいて、色々な言葉を喋っていて、コンコードでは感じられないアメリカの多様性を体験しました。自由の女神とエリス・アイランドを観て、アメリカの移民の歴史を覚えて、ロックフェラーセンターに行って、1920年代のニューヨークのまちづくりを覚え、現代に大変影響がある9.11テロが起こった現場、グラウンド・ゼロも見ました。国際連合のビルやチャイナタウンも見て、一日半だけでニューヨークをたっぷり満喫したと思います。

個人的に、私の祖父母や、お父さんの兄弟は何人もニューヨークに住んでいますので、会うことができました。あの時、おばあさんの調子が悪く心配だったので、会えたのはとても嬉しいです。今は、手術を受けて、無事回復しました。

帰国

朝のバスは遅かったですが、その後手荷物で大きすぎるシャンプーがある事以外、問題はなく帰国は無事に済みました。疲れていたもので、機内でよく寝ました。夜遅くやっと皆が待っていた七飯町に帰って、私は、また落ち着きました。きっと、一生印象が残る経験になると思います。



国際連合



グラウンド・ゼロ



自由の女神に向かうフェリーで

七飯町中高校生海外交流派遣研修要綱

(目的)

第1条 この要綱は、教育、文化、スポーツ等による交流を通じ、国際理解とグローバルな国際的視野に立つ豊かな人材を育成することを目的として、七飯町立中学校並びに北海道七飯高等学校（以下「公立学校という。」）に在学する中高校生を、本町の姉妹提携都市、米国マサチューセッツ州・コンコード町に派遣することに関し必要な事項を定める。

(派遣資格及び人員)

第2条 公立学校に在学する中高校生で保護者から承諾を得た者及び町立小中学校並びに北海道七飯高等学校（以下「各学校」という。）に勤務する教員とし、員数は次項のとおりとする。

2 公立学校の中高校生については、次のとおりとする。

(1) 七飯町立中学校 第2学年の生徒 5名

(2) 北海道七飯高等学校 第2学年の生徒 3名

3 教員については、各学校の推薦者から1名を選考する。ただし、町長が特に必要と認める場合は公立学校に勤務する教員の中から直接1名を指名することができるものとする。

(研修内容)

第3条 米国マサチューセッツ州・コンコード町及び米国東部地域内における交流研修とする。

2 研修期間は9日から11日間の範囲とし、コンコード町及び近郊においてのホームステイ、学校での授業体験を主に交流研修するものとする。

3 教員については、現地学校において授業を行うものとする。

(参加要件)

第4条 交流研修の参加要件を次のように定める。

(1) 心身ともに健全で、協調性に富み、規律ある団体行動がとれる者

(2) 海外での交流研修に熱心で、帰国後積極的に交流研修事業に協力できる者

(選考)

第5条 学校長は次のとおり派遣者を選考するものとする。

(1) 全校生徒並びに教員に募集の趣旨を公表し、応募のあった者から適格者を選考する。

(2) 学校長は、選考した者について町長に推薦するものとする。

(3) 町長は、推薦のあった者から派遣者を決定するものとする。

(派遣費用)

第6条 派遣に係る費用として、交通費、宿泊料、旅券代、渡航手数料、

旅行保険料等の経費について町が負担し、参加者負担金を3万円とする。
(事前研修及び事後の活動)

第7条 海外交流研修の目的を達成するため、故郷七飯町やコンコード町の特色、文化、海外旅行の心構え、英会話等を事前に研修するものとする。

2 派遣者は、帰国後に研修の成果としてレポートを提出するものとする。

3 町は、広報紙、ホームページ等により研修の成果を広く住民に周知するものとする。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

七飯町民海外交流派遣研修要綱

(目的)

第1条 この要綱は、文化、スポーツ、産業、経済等による交流を通じ、国際理解とグローバルな国際的視野に立つ豊かな人材を育成することを目的として、本町の姉妹提携都市、米国マサチューセッツ州・コンコード町に町民を派遣することに関し必要な事項を定める。

(派遣資格及び人員)

第2条 派遣者は、町内に住所を有し3年以上居住している者とする。

2 派遣者は、18歳以上とし高校生を含まないものとする。

3 派遣者が学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条の規程による大学等の学生で町外に住所を有している場合は、保護者の住所要件を勘案する。

4 派遣者の数は、予算の範囲内とする。

(研修内容)

第3条 米国マサチューセッツ州・コンコード町及び米国東部地域内における交流研修とする。

2 研修期間は9日から11日間の範囲とし、コンコード町及び近郊においてのホームステイにより、文化、スポーツ、産業、経済等について、交流研修するものとする。

(参加要件)

第4条 交流研修の参加要件を次のように定める。

(1) 心身ともに健全で、協調性に富み、規律ある団体行動がとれる者

(2) 海外での交流研修に熱心で、帰国後積極的に交流研修事業に協力できる者

(選考)

第5条 町長は公募により応募のあった者から面接試験により適格者を選考する。

(派遣費用)

第6条 派遣に係る費用として、派遣者1人1回について、交通費、宿泊料、旅券代、渡航手数料、旅行保険料等の経費について町が負担し、参加者負担金を二分の一とする。ただし、特定の目的を定め、特に町長が認めた場合はこの限りでない。

(事前研修及び事後の活動)

第7条 海外交流研修の目的を達成するため、故郷七飯町やコンコード町の特色、文化、海外旅行の心構え、英会話等を事前に研修するものとする。

2 派遣者は、帰国後に研修の成果としてレポートを提出するものとする。町は、広報紙、ホームページ等により研修の成果を広く住民に周知するものとする。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

町文化センターで行われた訪問団の壮行式



コンコードで 充実の研修を

「七飯の魅力伝えたい」

【七飯】町の姉妹都市・米国マサチューセッツ州コンコードへの町海外交流研修訪問団(杉原太団長、団員14人)壮行式が26日、町文化センターで開か

訪問団式 壮行

れた。訪問団は28日から11月7日まで11日間、コンコードでホームステイなどしながら現地の文化に触れ、交流を深める。(野口賢博)

訪問団は七飯中、大中山アドバイス。続いて各校の中、大沼中と七飯高校の生徒8人に引率教諭、農業後継者の町民代表3人に杉原

団長、町国際交流員でコンコード出身のクリス・ハウエルさんの計14人。訪問団はコンコード滞在中、カーライル高校で授業や部活動を体験するほか、ハロウィンパーティーに

参加。町民代表は現地農場の視察や経営者との意見交換などを通じ、現地の農法などを学ぶ。訪問団はこのほか、研修終了にニューヨークに滞在し市内見学を行う予定。

壮行式で中富安一町長は「黙っていてもなにもできない。言葉の間違いを恐れないで、積極的に話し掛けてください。貴重な体験をしっかりと楽しみ、多くのことを学んで帰ってきて」と

いた。式の最後には中富町長から訪問団に、ホームステイ先の家族へ手渡すお土産として、地元のマスコットキャラクター「ポロトくん」と「ポントちゃん」のエコバッグが手渡された。大沼中2年の福川冬真君(13)

は「初の海外なので不安はあるが、自分が成長できるいい機会。滞在中は積極的に英語で話し掛け、視野や見聞を広げたい」と話して

(第3種郵便物認可)

函 館 新

体験を通じ成長した姿披露

海外交流研修訪問団の事後報告会



日本文化との違いを紹介

【七飯】町と姉妹都市を結ぶアメリカ・マサチューセッツ州コンコードへ派遣された海外交流研修訪問団(団長・杉原大総務部政策推進課長、団員14人)の事後報告会が1日、町文化センターで開かれた。保護者や町民が見守る中、団員らは研修期間中の生活の様子や、学んだことを発表した。

(野口賢清)

「経験生かし、チャレンジを」

訪問団は七飯中、大中山中、大沼中の生徒に加え、七飯高生、農業後継者の町民代表らで構成。昨年10月28日～11月7日の11日間、コンコードやニューヨークに滞在し、地域交流などを実施してきた。

はじめに與田敏樹教育長が「皆さんは一般的な観光旅行では経験できない、素晴らしい体験をされたと思う。ぜひ今回の経験を生かして、大きな夢に向かってチャレンジしてほしい」とあいさつしたあと、早速報告会を実施した。七飯高校生3人による発表では、自分たちで撮影した写真を披露しながら、ホストファミリーの紹介に始まり、滞在中体験した出来事、施設の様子などを説明。カーライル高校での生活では、「朝7時までに学校へ行かなければいけないのは驚いた」といったほか、実際に授業に参加した際には「教科書は先生のプロジエクターで、自分のノートパソコンをノートとして使い、授業中に飲み物を飲んだり教室を出て行ったりした生徒がいた」と日本との違いを紹介した。また、中学生や町民代表は一問一答で報告。研修を通じて得た今後の目標を聞かれると、「いつかまたコンコードを訪問し、お世話になったホストファミリーに、自分が大きくなった姿を見せてあげたい」などと話していた。このほか、杉原団長によるコンコードの紹介が行われた。

後報告会